2023 年度

コロナウイルス感染症の 3 年間を経て
団体の活動について
アンケート結果報告

公益財団法人
コープともしびボランティア振興財団

（公財）コープともしびボランティア振興財団では、コロナ禍の 3 年間を経て、助成団体の活動内容にどのような変化があったのか、また今後の活動の発展に向けた支援を検討するため、2023 年度の助成先(205 団体)にアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。

１．アンケート結果から

8 割（172 団体）を超える団体が活動内容を変化させている、またはコロナ禍で新たな活動を始めたと回答しています。

例えば、オンライン化が進み、「周辺施設と Zoom を繋ぎ一緒に活動することが可能になった」「個別対応したことで相談が増え、より親密な関係が築けた」と前向きな回答が多くみられました。

財団としても、この 3 年間でインターネットに係る費用など対象となる経費を拡大させてきました。つながりを途切れさせず、活動を続けてこられた団体を、少しでもお手伝いできたのであれば、うれしく思います。

また、今後の展望として、助け合い支え合う地域づくりを目指すこと、行政や中間支援機関などが持つ情報や知見を、ネットワークづくりに活かしていくことを望まれています。

財団もボランティア団体がどのような情報や交流を望んでいるのか、個々の団体の相談に寄り添いながら検討してまいりたいと思います。

２．アンケートの概要

＜調査の目的＞

(1) コロナウイルス感染症の 3 年間を経て団体の活動内容の変化と今後の展望をヒアリング

(2) 地域別異分野交流での市民活動交流会開催に向けて、交流テーマの要望をヒアリング

＜対象＞

（公財）コープともしびボランティア振興財団から、2023 年度助成を受ける 205 団体

＜期間・回収方法＞

2023 年 4 月初旬～下旬、郵送による送付・回収

＜アンケートの回収率＞

205 団体中 199 団体（回収率　97%）

目　次

- アンケート集計　……P1～
- Q4　活動の変化・新たに始めたこと　……P2～
- Q5　皆様が感じる地域の中での困りごと　……P10～
- Q6　団体としてやってみたいこと・めざす地域の姿　……P18～
- Q8　市民活動交流会での交流テーマ　……P30～

アンケート集計

Q1　団体の活動内容（複数回答）

	回収数	199	100%
高齢者支援		77	39%
障がい者支援		48	24%
多文化共生		15	8%
多世代交流		47	24%
子育て支援、子どもの健全育成		96	48%
防災・減災		15	8%
まちづくり・地域おこし		60	30%
環境活動		26	13%
食と農・食育		25	13%
女性に向けた支援		19	10%
がん患者・家族の支援		6	3%
不登校・ひきこもり支援		20	10%
その他（文化芸術・介護者支援など）		22	11%

Q2　貴団体の活動年数を教えてください

	回収数	199	100%
～3年（コロナ以降に団体を立ち上げた）		26	13%
～10年未満		80	40%
～20年未満		42	21%
20年以上		51	26%

Q3　コロナ以前と現在では活動に変化はありましたか？

コロナ以前からの活動団体	173	100%
変化があった	146	84%
変化はない	27	16%

Q7　当財団から助成金を受けることで生まれる効果・発展（複数回答）

	回収数	199	100%
財政的に団体の負担が軽減される		179	90%
行政や他団体とのネットワークが広がる		98	49%
団体活動への地域住民の理解が広まる		96	48%
団体への協力者が増加する		70	35%
活動を担う人材の育成が図られる		61	31%
より広報活動を行うことができる		95	48%
その他		15	8%
無回答		1	1%

貴団体の活動の変化・新たに始めたこと

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと

■右の列の番号はＱ１で回答された活動内容
1. 高齢者支援　2. 障がい者支援　3. 多文化共生　4. 多世代交流　5. 子育て支援、子どもの健全育成
6. 防災・減災　7. まちづくり・地域おこし　8. 環境活動　9. 食と農・食育　10. 女性に向けた支援
11. がん患者・家族の支援　12. 不登校・ひきこもり支援　13. その他

＜福祉＞

・コロナ禍では、認知症ご本人の参加が少なくなり、それに伴い、家族での参加も少なくなったが、はがきやTelでのご連絡、そして家族の方からの相談が増えた。　・認知症ではないが、ご自身の老いに対して、ご家族の老いに対しての不安や直接的な支援をどうしたらよいか、まず相談という形で始まるが、「1人で生きていることへの不安」を語ることで、この場所へ来ること、その継続が増えてきている。特に新しいことを始めたわけではないが、来訪の目的の変化がある。 ・関西大学インターシップでの海外の学生が日本の地域活動の場所として参加があった。	1
3年間の間に亡くなられた方、一人暮らしが無理になりご家族のもとに行かれた方、体が動きづらくデイサービスに通う方など、会員さんが減った（速いスピードで）。ボランティアも年齢が上がるとともに休んでいると勘が鈍り、また物価の高騰により今までどおりの品数が作れなくなり、献立作成には頭を悩ませている。新しい会員さんが増えつつあるが、担い手が集まらないなど。	1
カフェとして活動していたので、活動に制限があり、高齢者を対象としていることから全く活動できない状態だった。Zoomを活用し、周辺の施設と繋ぎ音楽療法を楽しんでもらった。	1
感染予防のため参加人数を半分にするため2回（午前・午後、または2日間）に分けて開催した。お茶用コップを紙コップ・紙皿に変更し、歌やゲームなどを中止し、アクリル板ごしの会話とした。	1
コロナ以降は密になること・触れ合うことができなくなり、カフェでのプログラムに制限がある。喫茶では参加者の希望もあり、カップのコーヒーからペットボトルのお茶に変えている。	1
手指消毒が喫茶時のみから、来訪時、お茶タイム、帰宅前と3回スタッフによってアルコールを参加者の手に散布した。椅子・机など開始前と終了後に消毒を実施するために30分以上要した。体温測定や健康チェック、記入などにも時間を要した。感染を防ぐため顔色チェックして、必要時酸素濃度チェックし、寒い中でも窓を開放して実施。皆で共有する体操器具は使用を避けて、消毒できる物品だけにした。	1
病院訪問の再開を待ってのメンバーだけの活動になっている。	1
毎回軽食を提供していたが、飲食中止になり、提供できなくなった。食を楽しみに多くの参加者があったが激減する。	1
利用者様が３分の1に減少。コロナ対策のため利用者同士の（密）接触をするようなゲームや行事などができなかった。机と机の距離を取るため、利用者同士の会話がしにくくなった。一人ずつ投げられるボーリング（ペットボトルの空き瓶に水を入れたピン10本を立て、テニスボールを転がす）や輪投げは間隔を空けられるので取り入れた。	1
老人ホームへの施設訪問をメインに活動していたが、コロナにより訪問できなくなり、活動としてはおたより（年賀状）活動のみとなった。	1
・活動時間の制約があったため、点字印刷や発送作業を短縮することになった。そのため、メンバーの私宅での点字印刷補助を受け、定期発送を何とか期日内に納めることが可能になっている。　・コロナ禍で在宅時間が増えたため（？）か、点字活動の見学者が増えた。　・活動のイベント（点字利用者との交流会、食事会）を中止せざるを得なくなった。	2
活動に参加するのをためらわれている方があった。活動前の体温測定・消毒を徹底することで不安の解消になったと思う。	2
緊急事態宣言で点字図書館休館のため、館内ボランティア活動が休止となった。それまで会員が顔を合わせて行っていたテキストデイジー図書製作の打ち合わせや、研究会（製作マニュアルの共有、製作上の問題点の解決、PC操作技術の向上など）がZoomに変更された。製作はZoomやメール・郵送を使い、滞りなく続けることができた。しかし利用者の方や点字図書館の見学者（専門学校生、中学生、小学生など）を対象にしたテキストデイジー図書の紹介や館外での広報活動の計画が制限されたり、中止になったりした。そこで対面以外での広報活動を模索し、PR用のチラシやテキストデイジー図書紹介デモデータを作成し、より具体的でわかりやすい紹介ができるようになった。	2
コロナ以前はみんなでおやつを手作りして食べたりしていたが、水分補給だけになったコロナで集いを中止したこともあったので、Lineグループを作り、交流できる機会を作った。	2

Q4.コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
手話言語での会話において、口形も大切な要素だが、コロナ禍ではマスクが必須となった。そのため、ろう者には非常にコミュニケーションが取りづらい状況になり、不安な場面が増えた。そのような中で、サークルでは安心して楽しく会話できるように通常より広い部屋を使用したり、透明マスクを配布し、感染防止をしつつサークル活動が継続できる工夫をした。	2
小学校の点字を学ぶ総合学習の支援など、コロナの影響で外出しての活動はなくなった。	2
Zoomを使って、対面ではない活動を始めた。	5
リアルで会を開くことがむずかしくなり、活動を広げられなかったので、情報をSNSで発信していた。昨年活動に共感できる仲間ができ、本格的にSNS、オンライン発信を複数できるようになった。	5
活動が歌なので、休みも何度かあり、今も定期活動がほとんどで、他所からの依頼が少ない。	7
オンライン配信に注力した結果、高品質の接続が可能になり、遠方（北海道～九州）に住んでいる人もすぐそばにいる感覚で会場とやりとりが行なえた。結果、皆で交わされる意見に奥行きが出た。	11
活動場所をロビーから2階大ホールに変更。椅子、机など使用前後に消毒。申込制で人数制限。来場者には名前、連絡先を記入、お菓子持ち帰り。でも、熱心なサークル・ボランティアの方々の御出演のおかげで活動ができて感謝。	13
講演会などもなくなり活動が制限された。聴覚障害者も困っていたと思う。マスクで口元が見えないし…	13
時間短縮、人数制限、2部制、消毒、検温	13
・コロナで生活範囲が狭まり、他人と接することも減り、体調不良や将来への不安を口にする方が増えたような気がする　・極端に対話が減り、寂しさを感じる子が増えた　・メンバー全体が集まる機会が少なくなり活動が制限された。その代わりに各班でグループLINEを作り情報の共有を心掛けている。	1,13
デイサービスさんからの依頼が減ってきた。でも、近くの町内からの老人会の催事に声がかかり、喜んで演奏させていただいている。	1,13
2018年より垂水区ふれあい給食助成にて会食スタイルで毎月2回食事会を開催、その後喫茶もして、交流会では毎回イベント（演奏会、ビンゴゲーム、カラオケ、映画会など）を実施していた。2020年5月から配達することになった。現在41名～45名の方々に9食～25食を毎月2回配達している。	1,2
外出はストップ。CO·OPの組合員集会室は長い間利用ができなかったため、定例会はストップをしていた。活動は継続していた。	1,2
コロナの時期は、活動先であるデイサービス施設がすべて感染防止対策上立ち入り禁止となったが、2023年度からは活動再開となり、年間12回実施が可能となった。以前はハワイアンの演奏だけでフラダンスチームは別の団体で頼んでいたが、2022年度からはナレオのメンバーでフランダンスチームを立ち上げ、活動できるようになった。	1,2,10
参加者の人数制限により参加の減少、収束後も声かけがむずかしくスタッフで毎回声かけをして参加していただいている。イベントのボランティアの方々への中止や実施を伝え、ボランティアの方々の減少により予定がむずかしくなりつつある。	1,2,4
・週1の活動が週3の活動になった。　・お食事の提供を胸を張ってやれるようになった。　・知的障がいの18歳のお子様をお母様のお仕事が終わるまで2時間ほどお預かりしている（作業所終了から）	1,2,4,5,7,9,12
①憩いの場開催会場の変更（コロナ前の会場が狭く、感染対策上広い会場へ変更）　②開催日時の変更と2つの憩いの場を併合して1つに合体（スタッフの負担軽減）　③コロナ禍のニーズにより「買物代行お助け隊」立ち上げ　④引き続き「お困りごとお助け隊」立ち上げ活動	1,2,4,6,7,8
コロナのため、施設訪問の活動は全く中止となったが、新たではないが、楽器演奏の練習をしている。	1,2,5
施設出入りができなくなった。オンラインでつなぐ。DVD作成（動画）し提供。	1,2,5,10
マジック活動では、テーブルマジックのようにテーブルを囲んでのマジック見物。マジック教室では1テーブルに6～8人くらいでマジックをしていたが、コロナの関係では三密はダメということで、1テーブル1～2人のマジックとしている。そのようなことでボランティア活動でのマジックについては、以前は年間30件以上の活動が現状では数件という状態である。	1,2,5,7
コロナが流行したことにより、対面が大きく減った。また、対面で活動する際、少しでも体調が悪かったり、平熱より体温が高いと絶対に参加できない。マスクをするのが困難な障がい者の方との活動は中止にするなど、多くの制限が増えた。新たに始めたこととして、オンライン（Zoomなど）での活動があげられる。	1,2,5,7,8
・参加者が減少　・参加者の感染症に対する意識にばらつきがあるため、内容を工夫している ・飲食だけでなく、イベントを多く取り入れている	1,2,7

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
・密にならないように事前申込制にして、参加者の人数制限をした　・コーヒーを出して喫茶タイムをしていたが取りやめた　・開催時間を1時間半から1時間に短縮した　・今年度からは事前申込制をやめ、自由に参加してもらえるようにした	1, 4
1回の参加者数を限定するために、事前予約にしなければならなくなった。ふらっと立ち寄れる場所と広報しにくかった。	1, 4
コロナ禍でカフェやイベントを休止した。その間、今まで参加されていた高齢者の中には、体力のレベルの低下などからRoCoCo再開後に参加がむずかしくなった方もいた。コロナ禍の間に会場の神戸学生青年センターが移転し、新たな参加者の獲得があった。	1, 4
施設の利用制限があり、限られた活動になった。高齢者の中には外出したがらない方も多く見受けられた。コロナが落ち着いても変わらないように思われる。	1, 4
利用者が増えた。	1, 4
・他グループ（子ども支援団体）との交流があった　・私は元々子ども好きなので楽しんいる	1, 4, 5
・地域の居場所づくりとして運営している「ラ・ビスタよりあい広場」の利用人数を制限した。また歌声喫茶や映画観賞会の開催を休止している。　・亡くなられた方や移動が困難になった方などがあり、利用者が若干減っている。　・コロナワクチン接種1回目のとき、パソコンやスマホでの予約の手伝いをした。　・以前実施していた「ぜんざいの会」の代わりに「サンタからの贈り物」を開催し、コロナ禍でもできることを考えた。	1, 4, 5, 7
この3年間、多くのイベントが中止を余儀なくされた。また施設の収容人数が縮小された。イベント参加人数が激減した。昨年～現在では、コロナ以前の状態に少しずつ戻りつつある。	1, 4, 5, 7
地域での集まりの場（体操やいきいきサロン、サークル等）が休止となり、家に閉じこもる高齢者が増えた。様子を見ながら感染対策を考え、徐々に活動が通常に戻りつつあるが、出かけるのが億劫になったり、持病が悪化していたり、以前のような活気が戻るのに時間がかかっている。【新たに】百歳体操やいきいきサロンのあと、お茶を飲んだり、ゲームやクイズをしたり、ゆっくりおしゃべりや交流を楽しめる「通いの場」を開所した。	1, 4, 5, 7
以前は、加古川コープのつどい場にてランチを提供。食べていただいている時もコミュニティ、お話ができて楽しくその場で触れ合えた。コロナ禍では飲食ができなかったので、持ち帰りのお弁当に変更して販売・提供させていただいた。	1, 4, 5, 9
【活動の減少】室内での多人数による集合機会の減催。　【地域催事の中止による減少】協賛する地域の催事が中止された。　【参加者の減少】老齢化が進み、より外出機会が減少。	1, 4, 7
1）活動に際して、コロナ対策（換気対策、ソーシャルディスタンスの確保、体温測定、マスク着用、黙食等）を徹底した上で活動を継続したので、参加者減や回数減の影響が出た。　2)屋外での美化清掃活動をコロナの影響を受けにくいので新たな地域を追加して活動拡大を図った。	1, 4, 7, 8, 9
マスクをしたままショーを行なうことによって、表情が伝わりにくくなった。歌詞も伝わりにくく、大きな声を張り上げることもできなくなったため、マイクが必須になった。また、参加コーナーなどで、客席に行って一緒に歌うことができなくなった。舞台と客席の距離を確保するため、人数を制限することになり、少人数のイベントになった。	1, 5
向き合うような座り方をしないで、一方向に向かって座ったりしている。その場で食べないで持ち帰られるおやつを出している。	1, 5
公園・公民館での活動時は、感染対策に気を遣うことがあったが順調だった。高齢者施設への訪問が制限されたため、活動が少なくなった。	1, 5, 7
コロナ以前は地域の高齢者の交流の場（フレイル予防、健康維持のため）の会など、多人数での参加型コンサートという形で実践できていたが、コロナ以降、集えない・歌えない・近づけないなど、制限されることが私たちの活動には大きく影響した。一番の問題は実践する場がないということ。メンバーの中にはオンラインで施設側の協力を得て活動を再開した者もいた。	1, 5, 7
コロナ発生以降、食料品の無料配布を希望する家庭が増え続けている。食料品無料配布会に用意する食料品の量が増えており、引取る寄贈食料品だけでは配布する食料品が足りない状況になっている。寄贈していただける団体・個人の新規開拓に心がけている。	1, 5, 9, 13
地域での集まりの場（体操やいきいきサロン、サークル等）が自粛となり、家に閉じこもる高齢者が増えた。様子を見ながら感染対策をとり、徐々に活動が通常に戻りつつあるが、出かけるのが億劫になったり持病が悪化していたり、以前のような活気が戻るのに時間がかかっている。【新たに始めたこと】百歳体操やグラウンドゴルフの活動のあと、お茶を飲みながらゆっくりおしゃべりや交流を楽しめる「集いの場」を開所した。	1, 6, 7
・ふれあい食事会（食事会後ふれあい音楽会）、映画会、カラオケ…市営本山第四住宅集会室での実施中止。　・ひまわり音楽会（歌と南米楽器の演奏）…市営本山第四住宅集会所で開催継続。　・ふれあい音楽会（婦人会の活動とつなぐ）…本山南地域福祉センターでの開催。	1, 7
老人ホーム、デイサービスなど活動の依頼なし。健常者の依頼も減少。地域の皆様に声かけをしているが、高齢のためあまり参加できず、コロナの影響か？全体的に活気なく参加者がひこもりがち。	1, 7
(1)コロナ感染防止のため「ミニ・コンサート」（参加者数50～90人程度）の開催回数は激減（ただし、2022年度は回復）。　(2)会場設備としての透明板設置（自製）などの努力は実施した。	1, 7, 12

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
活動回数制限や中止。参加者の激減。	1, 9, 11
・コロナ以前は会場は病院で無料で借りることができ、参加者の駐車料金も減免を受けることができていた(一律100円）。ところが、コロナで病院内の会場が借りれなくなり、会場を変更し有料となった。またボランティアで関わっているスタッフの駐車料金も自己負担で毎回一人1000円近くかかるようになった。治療中の患者さんがコロナを用心して参加を自粛され、会への参加人数が減ったこともある。　・会場をウィズあかしに変更し、ウィズあかしの登録団体になった。他の団体の活動情報を得たり、私達の会の活動内容も紹介できるようになった。	10, 11
コロナ前にできていたイベントを再開すると、利用会場の利用制限が多くなり、諦める企画が出てきた。コロナ前には考えていたなかったセミナーや集まりがオンライン開催になったりするが、やはり対面で話をすることが心に響く場合もある。	10, 11
ちょうどコロナが流行した時に始めた。当初はオンラインで開催していたサロンも対面となり、より安心できる時間となっている。コロナも落ち着いてきたので、より多くの方とつながっていけるようにイベントも企画している。がん患者グループ以外の会とも交流していく。	11, 13
無料の会場が、人数制限のため有料会場を取る必要になった。現在も続いている。キートスについては、月1回平日開催していたが、土曜日（月1回）も開催することにした。例会の日に、1時間半を使用しておしゃべりサロンを開催。対象を家族と身近な人とした。	2, 12
会の最後に、絵本の読み聞かせをメンバーの1人がしてくれる（毎回ではないが）。ほっこりしたあたたかい気持ちになれる。	2, 13
コロナによってオンラインのギャンブルが増え、依存症も若年化、そして罹患者も増えた。	2, 13
前年度はコロナのため、例会をたびたび休会とし、いろいろな活動もできなくなり、聴覚障害者との交流や情報提供を図るのが困難であった。2022年度はコロナ以前のように概ね毎週例会を実施し、少しずつふれあい活動などを行うことができたので、聴覚障害者との交流を深め情報提供をすることができた。	2, 13
○コロナ以前は在住外国人児童の日本語指導や学習支援、生活サポートをしていたが、コロナの感染が始まってからは中止にしている（支援者が高齢者ばかりなので）　○壁面飾り用の折り紙は作品を持っていくばかりだったけれど、コロナが少し落ち着いた昨年からは小学校の折り紙クラブで少人数ながら活動を始めた　○公民館の授乳室の壁面を折り紙で飾ることを始めた	2, 3, 5
居場所作りに取り組んでいるが、飲み水などを会場で出せなくなり、シールドの使用も団欒に大きく影響した。そのため、参加者の方自身に能動的に活動してもらう内容へとイベントを変化させた。	2, 4, 7, 12
・オンラインによる交流（例会）　・講演会をハイブリッド形式で行なったこと	2, 5
コロナ流行中は多人数で来られる講師や団体の方をお招きすることができなくなった。	2, 5
遊具・教材の製作活動を行なっている集会室使用が禁止され困った。今も時短のまま。一同で話し合いながらの時間が少なく、宿題が増えた。一方で各自の創造力・製作力に驚くことが多々あった。学校訪問も制限され、交流も減った。後日写真をいただくこととなった。しかし、学校側より5月8日以降には「参観に来てください」とお知らせが入り、再び新しい交流が始まることが楽しみ。	2, 5
集合研修ができなくなったので、すべてZoomでの研修となった。今まで兵庫を中心として関西圏の通訳者が対象だったが、東海・関東の通訳者も対象となった。	3, 13
コロナ以降、内向き机上にての創作。孤独での活動が多くなったようで、展示会の公募を行なうと多数応募があった。中国国籍の参加者が帰国できないので、居場所づくりに参加された。募金活動を（コロナ禍での）子どもの貧困問題に着手する団体へ寄付するという主旨で行なうと、募金が3万円以上集まり、社協を通して善意銀行へ寄付することができた。	3, 4, 5, 7, 8
狭い会場での活動、多人数参加の活動を中止した。オンラインの活動を始めたが、対面再開時には終了した。	5, 10
まだコロナが消えたわけではないので、集会を企画することに消極的である。	5, 10
活動時：感染予防のため、受付スペースで子どもたちの体温を測り、消毒スプレーを一人ずつに用意するなど対策をした。　公演時：マスクをつけて公演を行なった。役柄に合うようにマスクの上からバンダナやレースをつけるなど衣装を工夫した。声が聞き取りづらくなるので、ワイヤレスマイクを借りて使用した。　全体：活動場所の人数制限を守るため、子どもの募集人数をコロナ前より減らした。	5, 12
活動の発信の機会となる人が集うイベントを中心にしていたが、実行はもちろん計画もむずかしくなってしまった。中止をしたものもあるが、思い切ってオンラインイベントも行なってみたが、オンラインは積み重ねがなかったのでむずかしい点が多くあった。	5, 13
コロナの感染が拡大している最中は、対面でのイベント開催をすべて取りやめ、YouTubeやZoomを使ったイベントを新たに行なった。	5, 13

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
2020年1月にひまわりができた。3月から8月まで6カ月間コロナのためお休みした。それ以降月1回（第3日曜日）の活動を休むことなくできよかった。今以上衛生面には気をつけて活動していく。①夏休み、冬休みに子どもたちと交流の場づくりをしたい。夏休み8月21日人形劇チューチューマミーさんに来ていただくことになり、これからお話をすすめていく。ご近所さんに来ていただき、私たちの活動を見てもらいたい。　②講師の方に来ていただき、おやつづくりのスキルアップに役立てたい。	5, 9
コロナ禍の中、食料支援を多くいただくことになった。いざという時のコミュニティの大切さ、危機管理がもっと必要だと感じている。オンラインでのセミナーなどリアルでなくてもできることと、実際に体を動かすことの切り換えをするようにしている。	5, 9, 10
＜まちづくり＞	
観光客の訪れが少なくなった。収容人数、発声などに制限がかかる。⇒2022年度は、ほぼコロナ以前の訪問客数に戻ってきた。	7
・企画ツアーの中止　・申し込みガイドの減少　・SNSでの発信　・いながわ道の駅での案内中止　・多田銀銅山悠久の館で春と秋の常設ガイドの中止	13
毎月1回集会を行なって「何をやるか？」を相談して決めていたが、年2～3回の集会に減らした分、活動に偏りが出てしまった。「見て楽しむ」をテーマに活動を進めたことで、シンボル花壇のディスプレイという新しい取り組みができた。	1, 4, 5, 6, 7
三密を下げるための施策：①音声ガイドの作成（原稿作成、録音作業など）、②ガイド時の人数制限（1グループ10名）、ガイドする人数増。	1, 7
夏のイベント（石積み）は中止した。屋外での活動だが、夏の炎天下でマスク着用での作業は熱中症を生むリスクが高いと判断。また、冬のイベントでの炊き出しも中止とした。	4, 5, 6, 7
ずっと続けていたアート・ものづくり・体験ワークショップなどのイベント活動が開催できず、子どもたちやご家族との交流がむずかしくなった。オンラインでワークショップやミーティングを行ない、何とか活動を止めず工夫して継続した。新たなアイディアでイベント企画や学生ボランティアとの交流を持つきっかけにもなった。	4, 5, 7, 13
リアルでのミーティングができず、意思の疎通が大変であった	5, 7
＜防災・減災活動、地域安全活動＞	
コロナの状況を考慮し、出前朗読の実施方法に変化があった。従来の対面朗読ではなく、多くの学校でリモートによる朗読を実施させていただいた。	6
人を集めて防災講座を開催することがむずかしかった。前もって計画していても、感染が拡大すれば延期や中止しなければならなかった。スーパー店頭を借りての救命体験会は、店頭を借りる許可がおりず、コロナ後は全く開催できていない。	6
・オンライン会議が増えた　・イベント定員を減らす	4, 5, 6
業績の悪化で退会された方、体調不良で思うように活動できない方など、存亡が危なっかしい状態になった。一方、伊丹市内だけでの活動を主張していたメンバーが退会、尼崎在住のメンバー1名に入会いただいた。	6, 7
＜人権擁護・平和の推進活動＞	
コロナ感染予防の面から入院中の方への面会制限や病院への訪問の制限があり、思うように活動することができなかった。その分、ボランティア養成講座をしたり、市民集会を開くなど、人材育成や精神医療の問題について理解を深めてもらう活動に取り組んだ。	2
＜多文化共生（多世代交流）＞	
コロナの流行から1年後（2021年2月）ミャンマーにクーデターが発生し、大きな変化となった。①ミャンマー現地への支援が困難となったこと　②在日本ミャンマー人が増加したこと　③将来不安と合わせて、困窮するミャンマー人が増えたこと　④国内での支援強化のため、NPO法人を設立したこと	3
・時期（コロナの感染者の増加）によって教室への参加人数が減った。　・支援者は学習者と相談してラインでの学習に切り替えた。	13
集客人数の面で、希望される方すべてを受け入れていたが、人数制限・場所の状況など広さや使用時間など制約が増えた。多世代交流を促す企画。一人ひとりがストレスなく暮らせることをよりポイントに考えるようになった。楽しい企画というより、よりストレスフリーになれることを大事にしている。	1, 2, 3, 4, 5, 7
まだ、コロナの影響は残っており、手指やテーブルなどの消毒、換気、マスクをしての活動は続いている。活動の内容については、コロナ禍では、その状況だからこそ必要なことをテーマに「フレイル予防のための運動プログラム」を1か月に1回のペースで、使用する機会の増えた「スマホやインターネット講座」を4回シリーズなどで開催した。基本的にはコロナ禍以前の活動と変わらないが、皆さんのご意見を大切に今必要なことをテーマに企画していきたいと考えている。「コロナが落ち着いた今だからこそ楽しい企画を」とご希望の多かった「外出プログラム」を早速5月に実施する予定である。	1, 4, 5, 7
生活困窮世帯が増えた。相談事が増えた。子ども参加費無料、弁当配布、持ち帰り対応。	1, 4, 5, 7, 9, 12

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
①集まることができなくなったため、オンラインでの交流会に2020年4月から取り組み、毎週朝活（日曜）として定着している。　②2019年度までは、年に数回行なっていた料理会は、2020年度下期にやっと再開することができた。この間、メンバーの引越や転職などでスタッフの確保がむずかしくなってきたが、毎月活動しているコトバカフェ神戸のメンバー中心に料理会も継続できる見込み。	3, 4
コロナ直後は学習者・ボランティア数とも激減。現在はゆっくり戻りつつある。オンライン授業を取り入れた教室もある。	3, 5
体験教室など中止せざるを得なかった。調理関連もすべて中止となった。ITスキル不足で思うように新たな取り組みができなかった。	3, 7
・講座の回数が約50%になった。参加者も減少　・コロナで家にいることが多くなり、だんだん引きこもりになったり、家庭内のけんかや暴力が増えている感じ	4, 7
放課後自習室を始めた。駄菓子屋に来る子は半分くらいになった。	5, 7
＜子どもの健全育成＞	
コロナによる緊急事態のため、1年3カ月おもちゃ病院は休止。その後、パーテーションの設置、マスク着用、アルコールの設置などいろいろな対策を実施し、開院時間を約半分にするコロナ対応をしていた。	1
・マスクの着用：語り手、聞き手共に表情で伝えるものが多いストーリーテリングにとってマスク着用は多大な影響があった　・密への対応：少人数でのお話会にすべくと2班に分かれるなどして対応した　・ろうそく：お話会最後に子どもたちにろうそくを吹き消してもらっていたが、代わりにどのように消すか試行錯誤を繰り返した。子どもたちも「自分の番」を楽しみにしていたので、残念だった	5
集まることに不安を持つ人がいる。外で遊べるプログラムを新たに始めた。	5
一堂に会する子ども食堂の開催ができなくなり、新たに持ち帰り弁当とフードパントリーを実施することにした。	5
歌を練習するし、子ども達が密に集うので、コロナ中は活動を控えなければいけない時があった。また、参加者も増えなかった。発表時に感染者が出て発表を中止したり、学級閉鎖で参加者がほとんどない日があったり…自粛自粛の2年だった。今年度やっと参加者も増え、自由に練習できている。低学年の子どもが増えたこともあり、年齢で分かれて練習したり、生活指導にも力を入れ始めた。コロナ前に戻りつつある。	5
おはなし会に行っていた2団体でおはなし会の中止。子育てサークル（保護者の引継ぎができず解散）、児童館（中止になったまま、その後再開されなかった）。SNSでの発信に力を入れている。	5
コロナ以前は子育て中の親子が集まれる場を運営していたが、今は休止している。コロナ以降は困窮している世帯が増えたため、居場所としての子ども食堂だけでなく、食材支援も始めた。	5
コロナの影響で、会食ではなく家族で食べてもらいたいとお弁当を配った。会食の時の友達との交流を楽しむのではなく、経済的に大変な方かな？と思うことがある。少しずつ隣の公園で、お弁当を置いて遊んで帰る子どもたちが増え、いつもと違う友達と遊びたい思いが伝わって来る。細々と続ける中で、お弁当の予約を忘れている家庭に、お母さんつながりで連絡したり、持っていってくださったり、親同士の仲が深まったと感じたことがあった。	5
保育園、幼稚園、小学校での公演がコロナのためできなくなった。また、高齢者施設など高齢者の集いの場でもまだできていない。公演回数は減っているが、いつでも公演ができるよう準備はしている。	5
練習場所での使用時間制限が厳しくなり、練習時間が減った．公演回数も減少した。新たに始めたことは、練習時と公演本番時の飛沫対策として人形劇の台詞をCDに録音してそれに合わせて人形を動かすスタイルに変えた。	5
紙芝居の訪問件数が減り、1年間の観客数は1/3～1/4くらいに激減した。そのため、オンライン紙芝居やSNSを利用して発信するなどの工夫をした。2021年の手づくり紙芝居講座は最終日の発表会が図書館で行なえず、場所を変えてZoom発表会となった。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
・講師を迎えてのおはなし会ができなくなった（コロナ禍で人数制限や参加者が自粛したりした）。　・メンバーが集まりにくくなった　・新たに始めたこと：◎自宅で過ごすことが余儀なくされることが多かったため、おうち時間を楽しく過ごしてもらうために、本の持ち帰りや自由に貸し出しができるようにした。	1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 12
コロナ以前は参加人数についてあまり気にしないでもよかったが、現在は感染についても対策するため、広い空間を必要とするため、部屋の確保が大変だった。ZoomなどのSNSを利用した活動にも新たにチャレンジする機会ができた。	1, 2, 3, 4, 5, 9, 10, 12
・コープの集会所が使用できない期間もあり、学習会を月3回から1回と減らした。　・老人施設へのおはなし会は中止となり残念。　・社協の方からの依頼で、新しい出会いがあった（障がい者施設への読み聞かせ会）。	1, 2, 5
・ちどり文庫は一室でしていたのを二室にし、本やおはなしの室と折り紙をする室に分けてするようにした。貸し出す本の冊数を1人10冊に増やした。　・SNSで連絡を取り合い、時間帯を決めるなど密にするようになった。　・ぢどり文庫の日お互いに気を付け合い、流れをスムーズにしたり、この4月から第4土曜日を増やし、文庫の日を月3回にした。	1, 2, 5

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
活動の場所がコロナ前は特養を借りて行なっていたが、活動の場がなくなり、公共の場を借りてお弁当配布をコロナ感染症拡大中もずっと行なって、6ヶ月後には新しい活動の場所を見つけて、そちらに活動の場を移して現在までコロナ禍もずっとお弁当配布を継続している。新しく始めたのは放課後カフェ「あくありうむ」、高齢者サロン「あおぞらサロン」です。「あくありうむ」は子どもの学び・遊び・ボランティアや食育また、不登校の子も時々参加している。「あおぞらサロン」は高齢者の体操や認知症学習の場となっている。	1, 2, 5, 9, 10, 12, 13
・最近は少し戻りつつあるが、公演依頼が激減した　・音楽演奏（オカリナなど）のグループを立ち上げた	1, 3, 5
コロナで活動を中止する経験をしたことで、かえって一段と絵本に対する魅力が増した。成長過程における大切な役割を担っているとより感じられた。久々のお話し会で児童の絵本への集中とスタッフのワクワク感はコロナ以前以上のものであった。	2, 5
コロナ前は利用する部屋の予約が取りづらくなっていた。コロナが流行してからは、部屋の予約がスムーズになった（コロナでもメリットがあるんですね）。コロナが落ち着いてきたら、また部屋が取れなくなってきた。他団体から地域の広場を教えてもらい、部屋が取れなくても広場を利用していくようになったので活動がしやすくなった。他にもコロナで活動できない団体と知り合ったので、お互いに協力しながら、今までと違った活動ができるようにコラボ企画を計画した。今年はいつもと違った場所で、そして違う仲間とのコラボ企画をやっていく予定。	2, 5
コロナになりより支援が必要だと感じて、ラインでおはなし会を始め、オンラインでおもちゃ図書館をつくり活動を始めた。昨年からリアルで開催できるようになった。	2, 5, 7
コロナ前に取り組んでいた活動(イベント企画・運営）がストップした。その際には対面で大勢集まれないため、オンラインのZoomを使用し遊ぶことを企画した。Zoom活動は現在はしていない。	2, 7, 9
家庭文庫を運営しているが、個人宅のため感染に不安をもつ親子の利用が極端に減少したのと、コロナ禍で親子の交流が減ったため、誘い合って文庫に来ることがなくなった。また、幼稚園・保育園が感染対策のため、出張のおはなし会の依頼やキャンセルが多くなり、おはなし会の数が減った。文庫の図書の宅配を始めた。野外でのおはなし会を開催した。	3, 4, 5, 7
家庭文庫。庭もデッキ（屋外）も広いので、本の貸し出しを外でしている。	4, 5
親子向けの音楽活動は参加される方が減った。また、内容はできるだけ席を立たず、楽器の共有はしないなど、楽しみ方を変えた。コロナ禍で、シアター音楽会を発展させ好評だった。	4, 5, 10
１．コロナ禍での活動を継続するため、感染対策として新たな活動手法を取り入れた。例１）広報：最新の医療情報の提供（小児病床の満床率、国内外の査読論文の要約、等）　例２）活動前：健康管理表提出の義務付け（1週間前からの行動／体温）　例３）活動時：不織布マスクの装着義務付け（正しい装着方法の指導）　例４）活動時：消毒用アルコール入りアトマイザーの貸与、用具備品の消毒　例５）宿泊時：集団テントから1人用シェルターへの変更　例６）調理時：集団調理から個別調理　２．感染対策費用が膨らみ、財務状況が悪化した。	4, 5, 6, 7, 8, 9, 13
子ども食堂をしているが、コロナ前はなるべく家庭料理、その雰囲気を…という思いで、食器での提供を行なった。コロナ禍より使い捨ての弁当容器での提供となり、今も続いている。食事前後の遊び、交流は、コロナ前は人数制限することもなく、皆でワイワイと密集して一度に食事をし、終わった後は皆で一緒にレクリレーションなどをして過ごした。コロナ禍より、分散しての食事、また終了後に一緒に遊ぶということがなくなった（これは復活させる予定）。	4, 5, 7, 9, 12
交流活動の活動が以前に比べ劇的に減った。現在は少しずつ復活していっている状態。新たに始めたことは、ブルーリボンをイメージしたボトルネクタイの製作と寄贈。	4, 6, 8, 9, 10
◎活動日数の減少と活動時間の短縮（3回／月→2回／月と2h→1.5h）　◎安心して集える場として、参加者が増加（令和2年までMAX11名→令和5年：MAX40名）　※親子でカウントしている	5, 10
感染に対する不安から集まって何かをみんなでするというイベント自体ができなくなった。オンライン交流は考えていたが、不慣れだったり、ネットが使えないとの理由で断念した。	5, 10
活動内容については変化はないが、活動場所を高齢者の方も多く利用される樋ノ口1丁目ふれあい会館からなな色シェアハウスに変更した。また、新たにオンライン（Zoom）での開催も始めた。	5, 12
大勢で集まる工作や調理などを含む活動ができなくなった。	5, 7
対面での読み聞かせ活動が全くできなくなって、市民図書室でのおはなし会が休止になった。コロナが落ち着いて、いざ再開しようとするとメンバーのライフサイクルがすっかり変わって、むずかしくなっている。今年はまた全く新しい活動で取り組みやすくするところから始めようとしている。	5, 7
どこにも行けない親・子が増えた。社会からの孤立がすすんだ。家の中でゲームをする時間が増えた。小学生の居場所づくりと食糧配布を始めた。	5, 7, 10
子ども食堂において、会食形式から弁当配布形式となり、メニューや分量など変わった。	5, 9

Q4. コロナウイルス感染症に翻弄された3年間を経て貴団体の活動の変化・新たに始められたこと	
＜食と農・食育＞	
①子ども食堂の開催回数が減少→今年は回復の兆しあり　②今年スタートの「親子農業体験」の応募者が殺到（10時申し込みスタートで当日の14時に満杯）→高齢者・障害者・留学生等を次のステップでの参加を目指しているが、希望者数とスタッフのアンバランスで拡大できるか？	5, 7, 9
＜環境＞	
１．地域で人を集めて行なう活動が減少した。　２．対面での交流が制限され、新しいメンバーの獲得がむずかしくなった。　３．東灘区役所1階ロビーで「区の花・梅」動画の放映を始めた。	7
①総会の開催が従来の対面方式から、書面議決形式に変化　②地域の児童館の体験学習や一般市民対象の里山整備体験・炭焼き体験の中止　③会員交流イベントのBBQやそうめん流しなどの中止	8
会員の参加日数が減った。	8
学習会の時間が60分～80分と短く設定されたので、90分の学習会を短縮したプログラムを新たに作り実践した。ワークショップ形式をレクチャー中心に変更した学習会もあった。	8
コロナ禍で活動回数が減った。現在は活動回数が元に戻ったが、参加人数がやや減った。東お多福山草原のモニタリングではササ刈りができなかった間に植物の種数が減少した。	8
従来定例活動として毎火曜日10時～15時（弁当持参）で行なっていたが、非常事態宣言時には、定例活動を中止し有志のみの非定例活動とし、解除後も黙食を求められていたので、活動時間を9時～12時に変更し、現在に至っている。	8
老人福祉施設（西宮市内）での活動が中止になった。	8
環境保全先進地バス旅行を行なっていたが、バスで長時間の旅はコロナ感染の危険性が高くなるので中止した。その代わりに宝塚すみれ発電所見学など近場で電車で行けるところにした。映画も延期している。今後もそのような態勢をとっていきたい。	5, 6, 8
コロナのお陰と言うのもなんですが、遠出ができず我々の活動エリアである六甲山の岡本背山近辺にも今まで登って来なかったような小さな子連れ家族が、たくさん登って来られるようになった。大変うれしく思ったが、一方この動きが継続する一助となるようにとの思いで、活動地の一部にフジバカマを植栽して、渡り蝶アサギマダラの飛来を得ることができた。	6, 8
コロナ以前→コロナ渦中→現在と毎年里山利用者・グループが年内増えている。里山林のコナラ類がコナラ密により枯れが多数発生のため、昨年夏頃から危険覚悟で伐倒作業進行中。	8, 12

皆様が感じる地域の中での困りごと

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？

■右の列の番号はＱ１で回答された活動内容

1. 高齢者支援　2. 障がい者支援　3. 多文化共生　4. 多世代交流　5. 子育て支援、子どもの健全育成
6. 防災・減災　7. まちづくり・地域おこし　8. 環境活動　9. 食と農・食育　10. 女性に向けた支援
11. がん患者・家族の支援　12. 不登校・ひきこもり支援　13. その他

＜福祉＞	
「おひとり様」が増えていくことを実感している。	1
○平地でなく山に近い方、坂の上の必要度の高い方が参加できずに孤立されているのを、募金活動などで訪問してみて知り、心苦しいが、集合する場所がなくて開催できていない。その方々は多数施設などに引っ越しされて空き家がどんどん増えている。　○詐欺のみでなく、認知症の一人暮らしの方が、次から次と貯金・家屋等の財産がだまし取られようとしている。近隣の方、弁護士、司法書士の方が現れて何とか守って遠い親戚にタッチできた方数名あった。	1
3年間の間にコロナで家族や知り合いの方を亡くされた方やコロナ以外でも大切な方を亡くされた方がおられる。人と話す機会も少なく、さまざまな喪失をされた方へのケアの必要性を感じている。	1
お医者に行ってもQRコードの予約になったり、よりよい優遇が得られるアプリからの支払いなど、時代に追いつくのに必死。	1
感染拡大時、開催することができず、会話が減り認知症の増加がみられた。	1
高齢化に伴い、1人暮らしの方も多くなり、生活に不安や不自由を感じておられる。	1
高齢者の一人暮らしは話し相手がいないこと。家で一人じっとしているのは嫌なので、れんがの家は続けてほしいと言われている。コロナの時もそれで1日も閉めなかった。	1
住民の高齢化、孤立化	1
他国からの若い5～6名orそれ以上のグループで広がっての自転車に少しですが、危険を感じることがある。	1
地域が山間で広範囲なので、高齢者が移動する手段が車となるため、開催場所まで自分の力でなかなか参加がむずかしい。	1
地域の困りごとではないが、年賀状書きの時集会室をお借りしているが、借りられる時間が短時間のため、数年前より個人で分担して（各家で作業）、仕上げを集会室に持ち寄り作業している。メンバーの負担が増えている。	1
どの地域団体でも（PTA・諸団体、他）人手不足で継続できる人材がいない。	1
1人暮らしの高齢の方が増えてきた。	1
利用者・STAFFが勧誘やチラシを配るも、利用者が増えない。	1
・聴こえない人が生活するのに必要な情報の見える化がすすんでいないと感じる。 ・聴こえない人とは「手話」「筆談」だけでなく、まずは顔を見てジェスチャーなどでも伝えたい気持ちがあれば工夫できることが浸透していないと感じる。 ・筆談をすれば通じるとの考えがあるが、実際には長文や言いまわしによっては通じないことがあることを知らない人が多い。 ・公的機関に手話でのコミュニケーションができる人がほぼいない。	2
一般の人は点訳に対し関心は薄く、点字を読まれる方も高齢者が多くなり、読むことを休まれる人も出てきている。	2
コロナになり、マスク着用やアクリル板などにより難聴者にとってコミュニケーションが取りづらい状況が続き、外出の機会を失くした難聴者もいる。その方たちがスムーズに地域活動などへ参加できるよう活動に力を入れていきたい。	2
障がい者一人ひとりのニーズが多様化しているのに、それに応えるだけの技術がボランティアに備わっていない。行政もボランティアの人材育成に理解が足りない。ボランティアの高齢化、担い手の減少により、障がい者団体との交流や支援に支障がある。	2
知的障がい者に対する理解が乏しいこと。	2
定期的に小学校や高校からの点字講習の依頼があるが、教育現場の方との話し合いの場が少ないため、講習の目的や意義がわかりにくい。授業のカリキュラムの一環だからなのか、義務的に行なっている感が否めない。	2
テキストデイジー図書がどのようなものであるか知らない人が多い。地域の中で本を読むことに不便を感じられている障がい者の方（大人だけでなく子どもも含めて）にテキストデイジー図書を届けたいが、地域でそのような情報をなかなか得られない。また利用者の方のご意見やご希望を直接伺いたいが、地域での交流の方法も見つけられないでいる。点字図書館で利用されている方も少ない現状である。	2
密になることなどが禁じられていたなか、参加者が増え、もう少し広い会場で集まりたいが、交通の便がよく車椅子でも定期的に集まれる会場がない。	2

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
困っていても相談できる場がない。現状を当事者レベルでなかなか理解してもらいにくい。	5
悩みを持つ方、心に不安を感じる方、孤独を感じる女性、それらの方が自由に来て安心して思いを言語化する場が必要かと。	11
ご近所の方でもお話する機会がなければわからない状態。防災の面でもいざという時の助け合いがむずかしいように思う。また、ひきこもりの方の支援をしていて、なかなかその家庭が見えにくい。	12
気軽に悩みを打ち明けられる相手がなかなかいない。情報などSNSを頼ってしまう人が多くなっていて、情報が古くなってしまっていたりして、実際のものとは違う場合があるように思う。目で見て確認して…ということが少なくなっているのかな？　公共の情報もホームページやQRコードなど高齢の方やネット環境がない人たちには伝わりにくい。	13
参加者の中でも高齢化がすすみ、耳が聞こえづらいとか足が弱い、長く座っているのがつらいなどで、困っている人が見られる。一人暮らしの人も増えて、出るのが億劫になっているようにも思える。	13
地域・家庭・職場などのつながりが薄れ、社会的に孤立し、生きにくさや暮らしにくさを抱えている人たちが増加傾向にある。	13
おれおれ詐欺をはじめ、なりすましの電話詐欺が横行し、他所に住む家族が用心（心配）して、容易に利用者さんを増やすことがむずかしくなってきた。	1,13
高齢者社会の今、より一層ボランティアの意義、私共のモットー「ふれあい」「見守り」をすすめていきたい。	1,13
必要な情報にタイミングよくつながらない（つながることができない）方たちがいて、窓口や情報などを伝える手段がもっとさまざまな形で用意されていたらと思う。	1,13
会員が高齢になるにつれ、免許の返納で交通手段がなくなること。	1,2
参加してくれる高齢者は77～97歳。認知症の方もいらっしゃるが、「お弁当に日を忘れてしまうのでやめさせてほしい」とのことで3名の方がやめられた。私どもの活動の地域は4カ所に渡っている。1カ所の地域の集会所を利用して交流会を開催しても、他の地域の方は参加してもらえない。	1,2
難聴者（失聴者）と活動しているが、どこへ行ってもマスクで口の形が見えないため、会話が成立しないという声を聞いている。目で見える障害に対してはかなり理解もすすみ、社会資産も整備されているが、目に見えない障がいに対してはまだまだと思う。引き続き、交流と支援を続けていきたい。	1,2
障がいのあるお子さまが学校を卒業され、作業所終了時間からご両親が戻られるまでの間の支援が不足している。子育て世帯も認知症や在宅介護をされている方々も、9時～17時以外のフォローが少ないなと感じている。	1,2,4,5,7,9,12
高齢者がひとりでも自宅で生活できるための生活支援活動。例えば通院付添、外出付添、家事支援、庭仕事etc	1,2,4,6,7,8
活動していることを宣伝できなくて、新しい出会いがあまりない。	1,2,5,10
私たちのマジッククラブの会員は7名。内訳は学生2人、主婦4人、高齢男性1人だが、学生は部活、主婦は家事等のため、クラブ例会に全員揃ってのマジック練習はほとんどできないのが実状。ボランティア活動でのマジック依頼があっても、出演者が揃わない。それで、他のマジッククラブに応援を頼んで人員を揃えているのが実状。できるだけ、自分たちのクラブの中で活動をしたいと思っている。苦しいクラブ運営の中で、気持ちの問題で依頼すると交通費を渡している。	1,2,5,7
高齢化により、地域の活気が欠けたり、シャッター商店街になったり、にぎわいがなくなっている。	1,2,7
○高齢化率が年々高くなり、世話役に高齢者が多くなり、一部の人たちの負担が増えた。　○コロナ禍をきっかけに集まりの場所が減った。　○医療や買い物にも歩いて行けるところが減り、移動手段も減り、一人暮らしの方はいつまで暮らせるか不安を感じながら暮らしている。	1,4
・自治会や老人会、婦人会などの役員の高齢化で活動が縮小している。若い人は親の介護などの理由で役員を断る人が多い。　・コロナ禍で総会ができない。	1,4
高齢化で一人暮らしの認知症の人が増えている。支える制度はいろいろあるが、個人情報保護などもあり、他の支援者どうしの連携が取りにくい。	1,4
参加者が高齢者ばかりになってきて、活動の担い手不足が問題。早朝、公園ということがネックになっている。	1,4
地域社会の高齢化がすすんでいる。新しく若いボランティアの担い手もなかなか見つからない。ボランティア、スタッフの高齢化による活動の停滞が懸念される。	1,4
ボランティア事業者の高齢化。	1,4
・困りごとはコロナの間メンバーが他の活動を始め、そちらを重く考えている人が何人かいる ・メンバーの高齢化	1,4,5

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
・少子高齢化がすすんでいる。高齢者の単身世帯が増えている。また、子どもが少なくなり、今年小学校1年生は1クラスだけになった。　・自治会などのコミュニティ活動が中断したため、お祭りなどの大きな行事の再開がむずかしくなっている。　・私たちの団体も含め、自治会やまちづくり協議会など、地域で活動する団体の担い手不足がある。　・集合住宅の地域のため、マンション管理組合とコミュニティ活動の違いについて、地域の方の理解が乏しく、活動がむずかしいと感じる時がある。	1, 4, 5, 7
介護保険の締め付けがすすんでおり、介護職員不足もあるため、少しの手助けをしてもらえたら自宅で住むことができる方がたくさんいらっしゃる。これまで独居の方や、人とのつながりがなく認知症が進むなど、どっかで予防できていたのではないかという思いから、地域で人との交流ができる居場所が少なく、コロナ禍で更に孤立している方が増えていると思う。	1, 4, 5, 7
活動の中心を担ってくれるメンバーの発掘。	1, 4, 5, 7
地域の高齢者から「免許を返納すれば通院や買い物に困る」「近くに病院がないので自力で通院することに不安を感じる」等、通院をはじめとする送迎を希望する声が多く上がっている。この課題を解決する方法を協議しているが、なかなか前へすすめないのが現状の困りごと。	1, 4, 5, 7
・高齢の方が多くなってきている。　・子ども、親世代がほっとできる居場所があればと。	1, 4, 5, 9
集まる人が少ないからと老人会や婦人会が解散してしまっているところもあり、人がいるのにお互いに知らない。地域の空洞化を感じている。困ってからつながりを求めるのではなく、やはり日頃のつながり（ゆるやかなものでよいので）が大事と思っているが、困っていないとなかなか大事さを感じてもらうのはむずかしい。	1, 4, 7
高齢化による外出意欲の低下。高齢化による協力者の減少。	1, 4, 7
・高齢者の外出自粛からの体力低下、認知機能低下が明らかに感じられる　・子どもの遊び場の減少など、コロナ禍での影響	1, 4, 7, 8
自治会をやめる人が増えている。	1, 5
地域で行なわれていた行事がコロナのために開催が見送られたり、中止になったりしてお困りのようだ。また、親子のふれあいの場も減って、行くところがないという声も聞いた。	1, 5
広報・PRの方法が少なく、活動が知られていないと思われる。	1, 5, 7
高齢者・子ども（子育て中の親子）対象とした集りの場を持ちたいと考えても、場所がなかなか確保しにくいということ。特にコロナ以降は人が集いにくくなったと感じている。ボランティアでは何か発生した時のことを考えると…。公的な場が使用できなかったことがあった。	1, 5, 7
身近に頼る人がいなかったり、困っていても相談できなかったり、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、不安を感じている一人暮らし高齢者や高齢者二人暮らし世帯が増えていること。	1, 6, 7
・ふれあいグループひまわり会については活動が減る（コロナで中止）ことになり、ボランティアの人も休みとなり、活動者が減少。食事でつながる地域の人との居場所がコロナでなくなり、歌は好き嫌いが激しいので参加者が限られてきている。　◎喫茶、食事などおしゃべりしながらの居場所が少ないこと。	1, 7
コロナ禍でもできる限り通常通りに行事・取り組みができるよう心がけた。ただ、皆様年々高齢化され、また、家族の介護・世話で参加しにくくなっている。	1, 7
地域の高齢化対策が課題。「団体」の活動としての「高齢者の引きこもり」対策…まだまだ満足とは言えない現状。	1, 7, 12
・各種いろいろな制度に至るまでの状況のサポートがない。　・まだまだがんに対する正しい認識がされておらず、抱え込む人が多い。	1, 9, 11
地域においては、行政との連携はできているが、その他の団体との交流や連携がうまくできていない。また、医療機関との連携をすすめたい。	10, 11
コロナでつながりにくくなっているので、これからはいろいろな形で、とらわれずつながりを作っていくことが課題。1人で暮らしている方も多くなってきているので、孤独にならないように、そのためにも会の認知度を上げていきたい。広報を、うまくよりたくさんの方に伝えるために何ができるか、年代ごとに考えていかねばと思うが、そのための知識や方法。	11, 13
元気な人は自ら来れるが、本当に支援の必要な人がどうすればつながっていけるのか！？　調子が悪くなった時にすぐにつながることができたら、ひどくならないかもしれない。	2, 12
依存症についての理解が広まらない。地域だけの問題ではなく日本全体。	2, 13
地域でのイベントなどで手話通訳者がいない場合がある。コロナ拡大でマスク生活になり、口元を読み取るろう者にとっては、コミュニケーションが非常に取りにくい。	2, 13
外国人の方が多く住んでおられる集合住宅がある。町内の活動にも交流がないと聞いている。今年はその集合住宅の研修室で日本語教室を開き、日本語指導や生活支援を行なう予定。	2, 3, 5
制度の間で孤立している方も少なくない。	2, 4, 7, 12
困りごとを話せる場所づくり	2, 5

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
発達障害に対する正しい理解が行き届いていない→さらに啓蒙活動の必要性を感じる。	2, 5
収益のない団体なので「無料で利用できる」が大きい課題だ。本部メンバーがスキルアップのために資格取得に取り組んでいるが、資金がないため自費。何か受けられる支援があるとうれしい。チラシ配布の協力やポスターを貼らせてもらえるところが少ない。役所・病院・学校・園などなど気軽に交流やチラシ配布ができれば広がるが、時間と労力の問題でむずかしい状況である。	2, 5, 12
ハンディキャップのある子どもや成人された方の生活をみると、家庭で過ごすなど制約されていることが多いと感じる。障害児者が親の手元から、ヘルパーの制度を使って買い物をするなど店に行ったりカラオケに行くなどする。このようなことが当たり前になれば障害児者の自立度もアップする。本地域は、高齢者支援は充実しているが、障害児者支援はこれからの課題が山積みである（放課後デイサービス施設が足りない。余暇を楽しむ場所が少ない）。	2, 5, 7
団体を始めた頃は英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語でよかったが、近年ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、アラビア語などの需要が増えて通訳者とのミスマッチがある。	3, 13
高齢者で足を悪くされる方が多い。元メンバーも車椅子になり辞めざるを得なくなった。コロナ禍にステイホームを守った人に限って足腰が弱くなり、杖をついて歩く人が増えた。	3, 4, 5, 7, 8
・子育ては初めてのことだらけで不安　・ママ友の作り方がわからない　・教育の仕方、子育て全般について共有する場を知らない　・おけいこなどのスクールの情報集め	5, 10
特にないが、病院を通して会の活動を知ってもらうが、病院も忙しかったり人事異動があるため、継続した安定的な活動が行ないづらい。	5, 10
母親同士知り合ったり、つながったりする場が少ないように思う。特に0歳児を子育て中の方は、子ども同士が遊べる年齢ではないため、子育てサークルや児童館等にも行きづらいと聞く。	5, 10
実際に不登校や登校しぶりなどでお困りの家庭に、私共のような活動をしている団体やフリースクールがあることを伝えるための行政や学校との連携が図られることができたらと常々思っている。そういったご家庭のお母さんの孤立を回避したい。	5, 10, 12
「学校に行きにくい」「行っているけどなじめない」子どもたちや保護者さんが気軽に集まれる場所が少なく、孤立しがちだと思う。また、不登校が増えていることを知っていても、地域で何を助けたり手伝ったりしたらいいのかがよくわからないのが現状だと思う。	5, 12
交通機関、地域の他団体との連携。アクセスが悪く、子どもの居場所を考えていても1人で来るということがむずかしい。親も働いている家庭が多く、会を開いても思うように集客につながりにくい。	5, 12
子育て支援においては、公的なものは決まりごとが多く、コロナ関連にしても柔軟性がもう少しほしいところとママ達から聞いている。誰かと話したい、過ごしたいということが、今はまだむずかしい状況下だが、やはり必要とされるものもそういった“つながり”の場であるように感じている。	5, 13
地域のために活動している団体さんはたくさんあるが、一般の方にその活動が知られていない。早くに知っていたら、暮らし方が違ったと思われる方が多い。	5, 13
なし。賀川記念館礼拝堂・天国茶屋、いつも場所を貸してくださり、ありがとうございます。	5, 9
ひとり親の問題だけでなく、子どもの不登校などの重なった課題が多くみられる。	5, 9, 10
＜まちづくり＞	
予算が少なく、私たちの知識などのレベルアップがはかり難い。	7
・公共交通機関の減少　・住人が意外と町内のことを知らない（南部の方は北部のことを） ・町内の魅力を普通のことだと思っている	13
地域での活動団体は多いが、それぞれが単発で終わることが多く残念に思う。	4, 5, 6, 7
地域の中で、子どもたちの遊び場が学校以外での居場所が少ないように感じる。地域に子どもが多いものの、昔から住んでいる住民（旧住民）と子育て世代（新住民）との交流は少ない。旧住民の方は農家をされている方が多いが、自宅で消費しきれない野菜も多い。	4, 5, 7
私たちの得意分野としては…　アートや文化芸術に気軽にふれられる場が東播磨地域に本当に少なく感じている。それらにふれられて、人々の交流の場をつくることがMUSIC ZOOとしての目標・使命だと思って活動を続けている。私の住む稲美町では、10代学生が楽しめる場・集える場がとても少ないと感じている。今後何かできたらと思っている。	4, 5, 7, 13
ボランティアで活動を共にしてくれる市民が少ないこと。	5, 7
＜防災・減災活動、地域安全活動＞	
大きな災害にあったことがなく、市民の防災意識が非常に低い。	6
会の活動を通しての困りごとは、やはり震災を知り得る人たちが少なくなってきていること。 年々薄れていく記憶、震災を全く知らない世代の増加、震災を風化させないための工夫と努力が必要だと思われる。また、地域の中での弱者や孤立した人々を防災の観点からも、今後どのように支援していけるのか、グループでも個人でも考えていきたい。	6
学生ボランティアへの支援（交通費）が足りていない（善意を活かしきれていない社会を我々大人が作ってきた）。	4, 5, 6
社会生活を行なう上で最低限のマナーである挨拶すらまともにできない、お粗末な家庭があまりにも多い。	6, 7

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
＜人権擁護・平和の推進活動＞	
さまざまな医療福祉サービスからこぼれ落ちる方へのインフォーマルなサポートが少ないこと。	2
＜多文化共生（多世代交流）＞	
新たに来日したミャンマー人がなかなか地域社会になじまないこと、困難なこと。	3
困りごとではないが、教会で活動するようになって地域の皆様との交流があればと思うようになった。これからの課題である。	13
住民同士のつながりがあまり太くない。高齢者が多い。	1,2,4,6,7,8,9
やはり高齢化だと思う。災害復興公営住宅の多い摩耶海岸通2丁目はもちろんだが、1丁目の分譲マンションも同様である。活動の拠点にしている摩耶シーサイドプレイスイーストも入居から20年経過した今、高齢者が増加し、認知症初期、MCIを疑われる住人も見られるようになってきた。さまざまな問題がこれから発生してくると思われる。また、地域活動の担い手の高齢化もすすんでいる。私たちのグループも70歳代が中心、同じ地域でワンコインサービスなどの活動をしているNPOも70～80代がほとんどである。持続可能な活動をしていくためには、どうしても若手の担い手を育てる工夫が必要だと思われる。	1,4,5,7
「どこに相談したらよいか困る、分からないのでここへ来た」という方が多い。人間関係（地域交流）の希薄化がすすんでいる。	1,4,5,7,9,12
外国にルーツを持つ住民の困りごとが、普通に暮らしていると見えにくいこと。夫婦の片方が日本人であれば、日本人の方を通じて問題解決につながったり、家庭内で解決されていると思うが、お二人とも外国人の場合はどのようにされているのか。実際にパンダ会のメンバーも、お二人とも外国人のご夫婦は少ないため、本当に支援の必要な方に支援ができているのか、ということが課題と感じている。	3,4
近年、多くの外国人労働者や留学生が来日しているが、たくさん入国させるものの文化や言葉の違いから近隣でのトラブルになっている。	3,5
地域で暮らす外国にルーツを持つ人たちは、より高い日本語の習得を望む以外に、やさしい日本語での会話・ふれ合いを求めていると感じている。	3,5
韓流ブームで、K-POPや韓ドラ人気は日本全体に広がっている。その一方で歴史的背景を持つ在日コリアンは出自を明かせないまま生活している。日本の中の韓流ブームを一つの支えとして、外国籍住民の存在に理解を深め「みんなが主役」のまちづくりが必要であると思う。	3,7
洲本市は年々人口減少傾向にある。都会に比べ、働く場所も少なく、若者世代（働く世代）の増加率もも少なく、ひいては少子化にもつながっている。それに反して、高齢者の1人暮らし世帯が増えている。地域での人と人とのつながりが希薄になり、居場所づくりもむずかしい。	4,5,9
1.家や学校で癒されない子どもの不安・孤立　2.コロナ禍ではっきりしてきた貧富の格差　3.社会ニーズに合わない住宅・店舗・工場の老朽化と空スペース化（有効活用を）	4,7
行政との協働がむずかしい。	5,7
＜子どもの健全育成＞	
再開しても、コロナ以前の受付件数には遠く及ばず、おもちゃ病院は不要・不急なのか常に自問していた。	1
衣装、大道具などの保管場所があればうれしい。	5
大人の見守りや、調理、大人とはいえ、若い方の活動がなく、40歳代が一人だけ、今は不景気で共働きでPTAや町会が減る一方、若い方たちへ応援していきたい。お互いに助け合えるように手伝ってもらえる若い方や学生に声掛けしていきたい。	5
学童保育児童の増加：3校ある地域の小学校どこも学童保育児が増加している。開始当時は1～3年生を対象としていたお話会も人数の関係で1年生に限定にしたり、学年別で回数を増やすなどしている。それとイコールではないかもしれないが、お話会への興味・関心を持つ保護者も減ったように思われる。できれば、地域のお母さんたちに仲間になってもらい、自分の子どもたちに本やお話を届けてもらいたいが、なかなかむずかしい状況です。	5
気軽に集まれる場所、おしゃべりできる場所が増えてほしい。	5
行政支援などに困っている人たちをつなぎたいと考えているが、相談支援の専門的な知識がある人がなかなかおらず、民間でも相談しやすい場があればと思う。	5
子育て世帯が経済的・精神的に窮屈さを感じている様子がある。貧困だけでなく、シングルの家庭・外国籍の保護者などさまざまな家庭があり、問題が発生した場合、どこと連携すればよいのかむずかしい時がある。	5
子育て中の母親（父親）の居場所が少ない。幼児、小学生が自由に走りまわって遊べる場所が少ない（特にボール遊びはできない、近所からの目が厳しい）。	5
子育てに関する交流や情報交換の場が少ない。学校以外での子どもたちの集えるところが少ない。高齢者世帯が多くて助けを必要とする方が多い。	5
子どもたちの遊び場が近くにたくさんあったらいいなと思う。	5

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
私たちのグループは、幼い子にわらべ歌を通して親子で楽しむ、スキンシップを楽しむ、絵本を楽しむ…など、人間として生きていける力を身につけてほしいと願っているが、親たちのわらべ歌に対する関心がとても希薄なので、とても心配している。地味な活動なので、他のミュージカルのようなエプロンシアターなどなどに押され気味だが、本当は、これ以上子育てで大切なことはないと信念を持って頑張りたい。	5
3年間続いたマスク生活の弊害。マスクによって人の表情を読み取れないことは、子どもたちが人の気持ちを想像しにくい。生き生きとした豊かな表情で人と対話することの大切さを痛感している。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
・高齢化で子育て層との接点が取りにくい　・参加者のニーズがつかみにくい（内容・参加しやすい時間帯や曜日・要望など）	1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 12
子どもたちが異なる世代との交流をする場がまだまだ少ない。PTAや自治会からの退会が増加し、地域のボランティア活動が年々むずかしいという意見が出ている。子どもたちが、地域で育てていくという「第3の大人」に出会う場を知らずに育つ。	1, 2, 3, 4, 5, 9, 10, 12
・活動の広報を如何に伝えていくか：口コミが大きいが、チラシなどを作り展示してもらうようにしていかないとと考えている。 ・お手伝いしてくださる人の高齢化：若いメンバーを増やしていきたい。 ・本を増やしたいが、経済面と本を置く場所の確保。 ※今年度、2名新しい人が加わってくださり喜んでいる	1, 2, 5
コープデイズ神戸北町のセンター内で、以前はお借りできたのだが、現在は、絵本・紙芝居・大型絵本・パネルシアターなどの保管ができなくなり、個人の家庭内で管理している。不便さと負担を感じ困っている。	1, 2, 5
○皆さん（地域の方）が晴れるやにボランティアを希望される。晴れるやが狭いためと16人のボランティアスタッフを2班に分けて活動している。今後のこともあり、若いボランティアをゆるやかに増やして、バトンタッチして運営していきたいが、高齢者の方ばかり参加希望がありお断りしているのが現状です。　○子どもたちの中で不登校がすごい数で増えている。今ある不登校支援場所に行けない子（行きたくない子）もたくさんいて、何人か時々「あくありうむ」に来ているが、新たにその子たちの場を作るのか、現在のままで時々受け入れるのか考え中です。	1, 2, 5, 9, 10, 12, 13
子ども会・子育てグループの世話をされる方が、公演などの依頼先を探すのに苦労されている。	1, 3, 5
一昨年の9月より豊岡市城崎町にて、月に一度こども食堂を実施し、70～110食の昼食を子育て世帯や一人暮らしの高齢者世帯に提供させていただいている。コロナ禍を経て、地域のつながりが薄く弱くなったと感じている。コロナ禍前の時点で、ある程度濃く強かったつながりは薄く弱くなりながらも、あるいは形を変えて存続しているが、もともと脆弱であったつながりは、コロナ禍の影響が限定的になった今でも切れたままになっている。こども食堂としての人的・物的キャパシティーが限界に近づく中、今なお孤立した状況にある方々にこども食堂をどのようにつないでいくのか、こども食堂の地域での位置づけや情報発信の方法など含め、現状具体的な方策を見いだせずにいる。	1, 4, 5
横のつながりがない。子育ても介護もすべて孤独なこと。	1, 5, 7, 9
広報活動がむずかしく感じる。チラシを作成し、健康開発センターや障がい施設に設置してもらうが、実際を見に行くと、利用者の目が届かないところに置かれていた。施設見学を申し込んで、施設関係者と話し合っていく方向。	2, 5
子どものことを母親やその家族だけで解決せざるを得ないこと。支援先になかなかつながらないこと。障がいのある子どもの子育てをしている家族に対しての情報提供が乏しいこと。能力が高すぎるが故のギフテッド児に対する、また特性のある人の活躍できる場がないこと。	2, 5, 7
・さまざまな障がいのある子とその家族が地域のイベントに気軽に参加できない　・居場所の選択肢が少ない	2, 7, 9
コロナにより交流が減ったため、コミュケーションの場が減少し、人と人との結びつきが希薄になっている。	3, 4, 5, 7
両親が揃って仕事をする家庭が増える中で、子どもたちが安心して過ごせる場所が少ないこと。マンションの共有スペースでたむろし、ゲームや鬼ごっこに興じ、住民からは迷惑がられている実態がある。	4, 5
親子での交流の場、サークルなどがかなり減り、小さい子どもさんがいる親が孤立していること。	4, 5, 10
コロナ禍だからこそ、子どもに必要な活動を感染対策手法を取り入れ、活動の継続を行なった。これに対し、情報を収集し理解することを放棄し、行政の自粛要請のみに従う一部の有力者による種々の中止圧力があった。反面、感染対策を評価し、活動の継続を支援していただいた方々もおり、心強かった。これらの経験から、地域の自治組織が硬直化し、後継者への世代交代がすすまない理由が理解できた。本来なら世代を問わず生活に密接に関わり合いのある自治組織が、すでに弱体化しており、遅くとも10年程度で消滅していく危機にあると考える。この状況は、超高齢社会の中で、大規模災害時の「住民による共助」を考えると心もとない。	4, 5, 6, 7, 8, 9, 13

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
子ども食堂は「居場所づくり」とされているが、月2もしくは4回程度の開催では不十分。地域全体で包括的な子どもの居場所、つながりを増やす必要がある。ただ、それをまとめ連携を取る期間・組織がない。（ふれまちの高齢化は大きい）	4, 5, 7, 9, 12
都心への人口流出、これによる少子高齢化の急激な促進。	4, 6, 8, 9, 10
・遊び場の少なさ（特に室内）　・行政サポートの差がある（島内3市全てバラバラ）	5, 10
近所に住んでいても名前など知らない。子育てやお年寄りの困りごとを誰かに話せる場面もない。	5, 10
・子どもが不登校になった（なっている）とき、保護者が気持ちを吐き出せる場所が少ない。他者に聞かれたくない内容などを安心して話せる場が少ない。　・不登校に関する地域の情報（親の会や子どもの居場所〔公的な場は教えていただける〕、同じ立場の保護者がいるかどうか〔個人情報の観点から〕、など）を学校からは教えてもらえない。それぞれがインターネットや人づてに情報を探している。	5, 12
明石市では子育て世帯・1人親世帯の移住の増加に伴い、子どもに関する問題も増えている。具体的な数字は把握していないが、不登校・行き渋りの児童が増えていると聞く。明石市が運営するフリースペース「トロッコ」が近くにあるが、定員以上の希望者数があり、入れないとのこと。コロナ禍でもあり、1人親世帯での経済面では厳しいと聞いている。	5, 12
教育と福祉の連携がむずかしいこと。	5, 12
学園都市近辺は教育熱心な地域でもあるので、子ども活動も盛んに行われているが、やはり家庭の格差を感じることもある。個人個人の多様性でもあるのだが、プログラムの組立てに悩むことも多くなった。	5, 7
利用する子どもたちが少なくなった。地域の人たちの顔が見えにくくなった。	5, 7
皆が余裕がない。若い世代は働いても働いても余裕がある暮らしにはならない。ボランティアも集まらない（有償にすると集まる）。地域で助け合う余裕がない（すぐ苦情がくる、寄付はこない）。	5, 7, 10
・未就学児が参加できる子ども食堂やイベントが少ない　・新規の参加者の獲得がむずかしい	5, 7, 9
・高齢者が気軽に出かけるところが少ない　・共働き増加に伴い、孤食の増加	5, 9
・共働き世代が増えて、参加者とボランティアの募集がむずかしい。アピールに根気と工夫がかなり必要だと思っている。　・母親同士のつながりを産後にできるだけ早く作れる機会をもっと増やしてほしい。	5, 9, 10
＜食と農・食育＞	
①過疎による情報の提供先の選択（よくわからない）（社会福祉協議会の方にお願いし、小学校・幼稚園・学童保育等を訪問し、チラシの配布をお願いした）　②畑を手放す地主さんが増え、買い取りを求められる→今年は畑を変わった。	5, 7, 9
市内エリアが広く、各所をまわったり、巡回して打合せ・野菜配達をしたりするのにある程度の時間やコスト（燃料費）などがかかってしまい、なかなか連携・規模の拡大に至らないこと。特に中山間地域への行き来が大変で、野菜ロス・フードロスになってしまっても諦めざるを得ないことがあり、既存の運送ルートと上手く連携できればもっと効率的にできるのにな、と思っている。	7, 9
食の問題。子どもの自然体験の機会の少なさ。	8, 9
＜環境＞	
活動を地域全体に拡げる時の場所の確保（写真展など）。	7
①活動の認知度がまだまだ低いと感じている　②行政の窓口との連携をさらに深めたいと思う　③活動の参加者の拡大と次世代への引継ぎが課題	8
環境分野に関してだが、プラスチックの消費に伴うゴミの量が増え続けていることが気になる。地域ぐるみで循環型社会が実現できたら…と思う。	8
高齢者が多くなり、現役世代への役が増えている。	8
コロナ関係の困りごとではないが、①地域の高齢化、過疎化で地域の交流も少なくなった。　②我々の活動は自然相手であるが、最近の温暖化が原因なのか、以前とは違う雑草や外来生物の繁茂がすごく対応に苦慮する。　③里山整備する方法や目標を考え直す必要があると感じる。	8
特になし。このまま継続していきたい。	8
若い世代や子どもが減って地域活動（イベントや交流）が不活性化している。	8
人生百年時代と言われるなか、高齢者の年金制度の変更で、定年延長がすすみ、退職年齢が60歳から70歳となり、実際退職した方は地域ボランティア活動に参加の人が減少し、低調になっている。特に団塊世代の会員が増加していないのが現状。	1, 7, 8
・近所付き合いの希薄など、コミュニティづくりの重要性。　・地域課題（コープミニ店の閉店：高齢者の病院・買い物するための足の確保など）に解決する自治会の自立・自律性の皆無。	4, 7, 8
マナーの悪い人が多い	4, 7, 8

Q5.皆様が感じる地域の中での困りごとは何ですか？	
当団体が主催する里山の整備活動や農業体験活動に参加される地域住民、環境体験学習に参加される小中学校の子どもたちには大変満足してもらっている。しかし、参加者や参加団体がほぼ限られていること	5, 8
活動団体の高齢化に伴う、次の世代への交代移行がスムーズにいかないこと。	6, 8
(1)活動できるメンバーが高齢化し、若い人が入ってくれないこと（元気な方々は70歳位まで仕事を続けられる）　(2)私たちの活動は中心市街地にあり、作業スペースが確保しにくいこと（花壇周辺は通行人が多く、資材を仮置きしにくい）	7, 8
住民の高齢化は進行しているにもかかわらず、地域活動への参加者は減少し、活動の不活性化や現活動の維持が困難となりつつある。	7, 8

近い将来のこと（３年先くらい）

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか

■右の列の番号はＱ１で回答された活動内容
1. 高齢者支援　2. 障がい者支援　3. 多文化共生　4. 多世代交流　5. 子育て支援、子どもの健全育成
6. 防災・減災　7. まちづくり・地域おこし　8. 環境活動　9. 食と農・食育　10. 女性に向けた支援
11. がん患者・家族の支援　12. 不登校・ひきこもり支援　13. その他

＜福祉＞

・現在の「認知症カフェ」は継続　・そこに行けば誰かが話し相手になる、「独りじゃないよ」と思える居場所　・「がん」に特化するのはむずかしいかもしれないが、スタッフ皆で、人々がふらりと立ち寄れる場所でありたい	1
○理想としては、老人会や婦人団体とコラボして大勢の方々と交流が深められたら、参加者の方々が近隣の方々と触れ合えて助け合いができ、生きる原動力になったらいいなあと思っている。　○現実にはボランティアスタッフも高齢化していて、続行するためには若い力の導入も必要であるがむずかしく、現実問題としては今を現状維持することが課題。連れ合いも認知症でディサービスに預けての活動で、また入院されている方などいて大変。　○いろんな団体さんの場所へ、参加されている方全員で出向したり、地域のイベントへ参加できるようにしたいと思っている。	1
多くの住民に認知され、参加者であふれるような、おしゃべりサロン「かわせみ」を開催したい。道行く人々が気軽に挨拶ができる地域になりたい。	1
介護予防はもちろんのこと、喪失（グリーフ）ケアができる居場所として定着していたい。	1
高齢の方が孤立しないように、自治会館で気軽に参加できる絵手紙などのサークルをはじめたい。	1
子ども食堂をしたいと40代の女性がやってきた。「れんがの家を自由に使ってください。私も応援します」と言いました。私も今年は81歳になり、ランチをしている夫妻も70代を半分くらい超えている。あと何年持つかなと思っていたので、今、私はとても明るい気持ちになっている。高齢者も食べれるようにするとのこと。女性が働きやすい地域にしたいと思っている。	1
このグループは長年続けてこられた先輩方の努力の賜物なので、何とか継続できればと望んでいる。	1
これからもより多くの方に参加いただき、楽しい交流と介護予防を続けていくことがまず一番である。運営を円滑にし、利用していただきやすくするために、同じ活動をしている団体との統合も考えている。高齢になっても安心して楽しく暮らせる地域になってほしいと思う。	1
人材さえあれば家から出られない方のために面会も必要かなと思うが、実現は不可能かな？	1
地域で行なわれている行事に参加していきたい。当ボランティアグループの人員構成が幅広くなり、多世代交流ができればいいなと思う。	1
地域の高齢者が認知症になることなく元気で暮らせるように、いろいろな手仕事や体操など、またイベントなども実施したい。	1
認知症への偏見を少しでも払拭できるように広報・情報発信できればと思っている。	1
病院またはそれ以外でのボランティア活動ができればと思っている。若い方に活躍していただきたいが、パートなどのため余分なことはできない。現状維持からの一歩前進を模索中。	1
ホームの担当者と話をしている。近いうちに訪問が再開できるとよいのだが…コロナ前と同じような活動ができればと思っている。メンバーも高齢化していて地域の若い方の参加があればと思っている。	1
利用者には運動会・クリスマス会等、以前にしていたような行事ができて、笑いの絶えないワクワクした時間を過ごしていただきたい。	1
・視覚障害者へのボランティア活動を行なっている団体・サークルなどとの交流を持つ場があればとよいと思う。録音・歩行援護など他分野から得る知識は点訳活動の視野が広がる。　・神戸市以外の専門機関（ライトハウス、点字図書館）などの勉強会への参加。メンバーのスキルアップのためにも、他の地域からの情報は大切。　・昨今はパソコン点訳が主流なので、高校への出張講習などの際や、より多くの人がパソコンでの点訳を体験できるために、将来的にはPCの台数を増やしたいと思う。	2
・もっと多くのろう者が気軽に参加できるサークルにする。 ・現在、サークル員には高齢者や女性が多い。今後は若い人や男性メンバーの参加を増やしたい。 ・「手話言語」でのコミュニケーションはサークルの目標ではあるが、その前に聴こえないことへの理解が深まるサークルにしたい。 ・せっかく縁があってサークルに入会されても、さまざまな理由でやめてしまう方も多い。そのことは、一緒に活動しようとしているろう者としてはショックなことであり、サークルとしても悲しい。サークルメンバーが永く楽しく参加できるサークルにしたい。	2

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
今はコロナで視覚障がい者を招いての講演会もできずにいる。一般の人に関心を持っていただき、バリアフリー化をすすめていくためにどうすればよいかを思案中である。	2
各地の練習会を変らず継続していたい。地域に根付いた練習会、障がい者の方たちとともに楽しい時間を過ごせる練習会を目指す。	2
高齢化による老人性難聴、ヘッドフォンによる若者の難聴が増えている。誰に相談したらいいか悩んでいる人はたくさんいると思う。呼び込みに力を入れて「1人ぼっちの難聴者」を無くしていきたい。また、三田市や学校とも連携し、「難聴者に対してどのように接したらよいか」…といった学び場を持てればよいと思った。現在実現に向けて前進しているところ。	2
作成中のホームページを完成させてアップし、失語症や高次脳機能障害について啓蒙していきたい。現在東灘区で活動中であるが、参加者は西区、須磨区、北区、西宮市から来られている。もう一カ所活動拠点が設けられるとよいと考えている。	2
視覚障がい者のニーズに応える点訳で、すべてできるようになりたい。学生の教材（教科書、特に英語）、絵本など。小学生の点字学習など地域の人全体に点字に触れる機会を作り、点字に興味をもってほしい。視覚障がい者への理解を深めるとともに、点訳ボランティアの担い手が増えてほしい。障がいも個性と捉え、すべての人が他人を尊重し支え合える社会になってほしい。	2
視覚障がいを持つ方が、読める本を多く選択できるように一冊でも多く点訳本を作成していきたいと思う。また、インクルーシブ教育の広がりにより視覚障がいを持つ児童生徒が盲学校ではなく一般校に通うことが増え、教科書や参考書の点訳のニーズが高まっている。しかし、図や表などが多用され視覚的に分かりやすいものは点訳がむずかしく、点訳者は全く足りていない。グループ単独で教科書の点訳はできないが、補助的作業など微力でも一助となる方法を探っていきたいと思う。	2
テキストデイジー図書製作にかかる時間を短くし、少しでも早く利用者の方に届けること、様々なジャンルの本を数多く製作することで利用者の方の要望に応えていくことを目標にしている。そのために今後もボランティアの募集と養成講座を継続して行い、会員数を増やしながら、会員一人ひとりが研鑽を積み、よりよいテキストデイジー図書を製作していきたい。また、広報活動を続け、テキストデイジー図書の認知度を上げることで、地域社会へ貢献していきたい。必要な情報が今より得られやすくなっているといいと思う。	2
まずメンバーの方々が心も体も健康になってくだされば うれしい。現在、国が定める障がい者福祉サービスの中に、18歳以上の知的障がい者のための余暇支援、発達支援の場がない（18歳までの児童のための放課後などデイサービスは2012年に発足している）。ワンダーランドは草の根レベルの活動だが、続けていくことで賛同者が集まり発展していったり、また別の地域で同じような活動が生まれたりしながら、全国に広がってほしいと願っている。そしていつかは行政を動かし、新たな障がい者福祉サービスの一つとして認められることを望む。	2
グループを立ち上げ活動を始めて40数年になる。活動内容は必要とされ喜ばれているが、メンバー全員高齢、後を引き継いで活動をしてくださるグループをぜひ育てたい。そのひとつに「かわいいうさぎ」グループが数年前にできたが、これに続く第2、第3を望む。	5
地域でのアレルギー相談会。医療関係者の方に入っていただき、学校・学童・保護者など困っている人の橋渡し役となる。アレルギーで困っている人がいたら「オリーブさんに聞いてみよう！」と言ってもらえるようになりたい。	5
不登校支援の居場所やコミュニティが兵庫・関西で増えてきているが、皆さん広報に苦戦していることがわかった。リアルやオンラインで団体のつながりを作り、更に共に共有し合えるような支援・サポートできる活動にしていきたいと思っている。	5
定期活動のみならず、老人ホームなど他からの依頼で訪問し、みんなで歌える場を多く増やしたい。横の連携を取り、協力し合えたらと思う。	7
がん患者でありながら生き方にポイントを絞った活動、生きる意味を考える場、これはがん体験の有無を超えてすべての人（市民）に必要であるとの思いで広く市民活動につなげていきたい。自己体験を社会に活かそうとする文化、それは住民同士が互いに支え合う地域社会づくりに寄与していく。	11
三木市や教育委員会のホームページなどに市民の相談先として記載してもらう。悩みや相談したいことがあれば、親の会に連絡があるような団体になっていたい。市民から信頼が得られ、親（不登校、ひきこもり）だけでなく、シルバーの方にも理解してもらえるようになればと思う。	12
一緒にやっているカフェがあるので、いずれは合体していければよいかと思う。	13
きょうだいだけでなく、障がいを持つ家族の会としてそれぞれの立場の居場所になっていたらよいなと思う。さらに自分には関係ないからとそっぽを向くのではなく、地域の人たち、みんなが助け合っているような地域になっていたらよいなあと思う。	13
傾聴（人の話を聞けるようになる）の姿勢を学び、研修を重ねることで、生きづらさや暮らしにくさを抱えている人たちのお気持ちを聞かせていただく傾聴ボランティアとしての活動につなげたい。志を共にできる仲間で活動を支え合い、助け合うことを通して、少しでも多くの傾聴ボランティア活動のできる団体としての基盤をかためていきたい。活動地域が孤立・孤独感のない、人とのつながりのある自律できる社会にしたい。	13

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
個人情報で制約を受けるので聴覚障害者がどこにおられるかなど知り得ないので、こちらから手助けに行けない。3年先には行政と連携してより多くの難聴者の手助けができればいいと考える。	13
コロナ前の賑わいに戻れるように。私を含め、元気な高齢者メンバーだが、限界が来ると思う。どうしたら次世代にうまくつなげるか。	13
（4月からすでに取りかかっているが）情報発信の手段を増やしたいと思い、インスタグラムを開設。福祉関係の事業所などともつながりがもてたらと思っている。介護保険を利用する時に、インフォーマルなサービスも利用しながら暮らす人が増えてほしいと思う。	1, 13
さらなる利用者増で活動の発展	1, 13
趣味を生かし、喜んでいただければ私たちもやりがいがある。習い事をする意欲のある方たちが増えていくことを望む。	1, 13
もっと利用者さんが増え、高齢者や独居の方に少しでも寄り添えたらと思う。それには地域の皆様に我々の活動を知っていただきたい。コロナが落ち付き、メンバーの全体会を開く機会が増え、傾聴ボランティアの勉強会を開ければと考えている。	1, 13
・CO·OPのボランティアの中で他地区の同じようなサークルがあれば交流をしたい。　・私たちが製作しているクッキングの本の活用場所を広めたい。継続ができるか不安（メンバー独自の問題）	1, 2
今は手話や筆記でおしゃべり会・交流を行なうことがメインだが、コミュニケーションに自信がついた中途失聴者が外で活動していけることを目指している。初めはともにレクリエーションや学習をしたり、ハイキングをしたりしたい。最終的には、中途失聴者が社会活動に多く参加できるようにしていきたい。そのためには、理解啓発をして、目に見えない障がいを持つ人たちを受け入れていける地域となってほしい。	1, 2
現状維持で、障がい者と健常者、また高齢者がスポーツで楽しむ。みんなの楽しい居場所になっていることを続けていければと思う。	1, 2
神戸市垂水区と明石市の両市でつくられた明舞団地での活動で、神戸市・明石市の助成金申請をそれぞれしている。「明舞団地」として1つにまとまっての活動支援を受けられて、毎週1回は実施したい。食事会も配達も高齢者の希望によって選べることも望む。	1, 2
人生百年時代に、高齢者の好きな音楽を楽しむことができる非日常の空間・時間を数多く作り出し、元気な若々しい生きがいづくりとして定着させていきたいと思う。活動区域としてはあまり広げるのではなく、三木市内に限っていいと考えている。	1, 2, 10
参加者が常に同じ方々…もっと幅広く広報し多くの方々の参加ができるようにと考え、毎月スタッフが声かけを実施しているが、コロナ以前のようには気軽に参加される方が減少している。イベントのみの楽しみでなく、地域のコミュニティの場として一人でも多くの方にご参加いただき、顔見知りや友人をつくれるよう、地域で安心して生活できることをメインとして活動していきたい。つどい場だけでなく、趣味として、足が悪くなっても座ってできる絵手紙などで楽しい日々を過ごしながら、友人とのつながりを大切に無料体験会にも参加いただけるよう声かけをしていく（指先や脳の活性化のため継続して実施し、多くの多世代の方々に参加していただけるよう働きかけていく）。	1, 2, 4
・車椅子の方々も入れるお風呂のあるつどい場をやりたい。団体として認知症の方々を9～17時以外、デイ以外の日、施設入所の方々も過ごせる場にしていきたい。　・障がいのある方、認知症の方々が安心して暮らせる地域になっていくお手伝いのできる団体になっていきたい。	1, 2, 4, 5, 7, 9, 12
①どなたでもいつでも集える場所の提供・運営。そこにオレンジカフェを併設したい　②「お困りごとお助け隊」の周知・拡大　③灘区内全域が誰でも安心して生活できる地域になるよう今後も協力体制を整えて活動する	1, 2, 4, 6, 7, 8
特にない。現状維持とし、コロナの終息を待ち、施設訪問の活動を望むのみです。	1, 2, 5
地域住民向けの活動の定着。活動地域はご縁があれば特定しないが、地道に定着して地域に根差したい。	1, 2, 5, 10
3年後の私達のクラブのことを考えると、学生2人は中学生、大学生になる。主婦の方も不安の要素があるので、頑張ってメンバー募集をしなければダメだと思っている。クラブメンバーは少なくても10人くらいで活動したい。	1, 2, 5, 7
当団体は、近い将来環境保護活動や地域社会支援に力を入れていきたいと考えている。公園の美化活動などを通して、温暖化など地球が直面している大きな問題の解決に少しでも貢献したい。社会的に大きな意義を持ち、ボランティアに参加する人々の生活にも大きな影響を与えられるような団体になっていたい。当団体の活動地域について高齢者や障がい者、子どもたちなど支援が必要な人々が住みやすい場所になっていればいいと思う。	1, 2, 5, 7, 8
学びの場になればと思う。リピーターが増える取り組み（スタンプカードや広報活動）。数ある居場所の中で独自の内容で地域との連携を深めていきたい。	1, 2, 7
・地域の方が楽しみながら安心して参加できる居場所づくりをしたいと思う　・スタッフも高齢になるけれども、健康で役に立つ催しを開きたいと思う	1, 4
現在週一度のカフェランチ活動の他、朗読カフェや編み物カフェなどができればと思っている。若い世代を巻き込んで地域に活動が根付いていけばと思う。	1, 4

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
子どもたちの交流を多くする。若者のスタッフが加わり、活気ある団体であったらと思う。安心して暮らせる地域になる。	1, 4
食事の提供をしたい。もう少し広い場所を利用して、子どもや若い世代と交流して互いに理解し合いたい。地域として認知症の人やその家族、障がいを持つ人などを支える意識や知識を高めたい。	1, 4
地域の人々が年齢を問わず気軽に立ち寄り楽しくおしゃべりのできる場所になればと思う。また、地域包括支援センターとのつながりを生かして、高齢問題の学習などを続け、地域に共有できればいいなと考える。	1, 4
・あんしんすこやかセンターの方が交代で来られ、利用者の方が交流されている。これは続いていければと思っている。　・他のサークルとの交流	1, 4, 5
・現在の活動を続けられることが一番の願い　・さらに地域の方に認められる団体になりたい　・地域にある様々な課題を、地域の方と一緒に考え、一緒に解決していく力をつけたい。　・自治会やまちづくり協議会など地域の他の活動団体とも連携・協力して活動していくことで、住みやすいまち、安心して住み続けることができるまちになってほしい　・地域の皆が理解し合い、協力し合えるまちであれば、必ず住みやすいまちになっていくと思う。	1, 4, 5, 7
①団体としてやってみたいこと…近くに住んでいる顔なじみが日常生活のちょっとした困りごとを手助けする支え合い活動　②どのような団体になっていたいか…お互いに「助け合い支え合える」関係を築き、気軽に相談したり、活動の仲間を広めたり、地域住民の思いをつなぎながら暮らし続けられる町づくりを目指したい　③活動地域がどのようになっていればいいか…地域の集まりの場が活気あふれる場となるよう、住民同士の交流やふれあいを大切にする。活動を通して新たな生きがいを見つけたり、思いやりの気持ちを育んだり、住民みんなで自分たちが暮らす地域を活性化させていければいいなぁと思う。	1, 4, 5, 7
家族の介護で悩んでいる方や、これから介護が必要になりそうな家族がいらっしゃる方、認知症や障害をお持ちの当事者、地域で働く介護職員さんなど、カフェに来たらいろいろな話をしたり、楽しく過ごせて交流ができるなど、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを目指している。団体としては、若い世代にも高齢者のことを理解してもらい、介護保険を利用しなくても元気に手を取れるノウハウを伝えていけたらと思う。多世代の交流ができる場で、地域の方同士知り合いを増やしつながりを作れるようになってほしい。	1, 4, 5, 7
まずは、5年～10年と活動を継続できること。そのためには、活動の中核を担う人材の発掘と育成及び活動資金の継続的確保が必要。活動内容としては、近隣の大手前大学の学生を巻き込んで、子どもたちの野外活動を計画・実施できる体制を作り上げたい。	1, 4, 5, 7
持ち帰りのお弁当は喜んでいただいている方もいるので、ランチ形式になればどうしようかとは思っている。どなたでも寄ってきて食べていただいて、コミュニティ・交流の場にできればと思っている。	1, 4, 5, 9
今は高齢者を対象に行なっているが、将来は地域活動・催事の協賛はもちろん、子育て世代～高齢者までをターゲットにした活動を目指したいと考えている。このことにより、持続可能な活動の下地を堅固なものにしていきたい。	1, 4, 7
地域の多世代が参加できる運動会をやってみたい（発表会でもいいかもしれない）。お互いの日頃の取り組みを知ったり、一緒に何かを作り上げたり、共に過ごせる時間はきっとよいきっかけになると思う。「ひまわりの家園田」は地域の人たちが出会える場所であり、ひまわりの家がきっかけとなりつながりが循環していける場所でありたいと思っている。	1, 4, 7
○高齢者と子どもが共に集える遊びの機会をつくる　○地域で植物の癒しを広め、人と人のつながりの場がつくれる団体を目指す　○活動地域は兵庫県全域を目指し、誰もが植物と人の関係の大切さを知り、人がやさしくなる地域になってほしい	1, 4, 7, 8
当会は現在三大活動（食縁交流会活動、環境美化活動・多世代交流活動）を実践し、年間1400人程度の参加者を通して地域共生社会づくりを推進している。今年度から「子ども家庭庁」が発足したこともあり、今後は少子化対策に注力し、「こどもまんなか社会」の実現に向け、子どもや若者への対策に取り組みたいと思っている。具体的には子ども対策として、親子向け講座・子どもへの感受性教育・若者への出会いの場拡大・未婚化晩婚化対策等ソフトな少子化対策を広めて、子どもが幸せに育っていける社会（地域）へ具体策を実施する計画です。	1, 4, 7, 8, 9
・人とのつながりが希薄になったりふれあいを求めている人たちの「集いの場」を活性化させたい　・「歌と踊りのレクリエーション」が珍しいようで、行くと必ず大変喜ばれるので、継続してイベントを提供することによって充実した「集いの場」にしたい　・1回来てもらった人に、次回はさらに誘い合って来てもらい、豊かな地域コミュニティづくりを実現させる助けになりたい	1, 5
皆がもう少しスマホを使いこなしてほしい。カフェの行事にもっと多くの人が参加して、楽しい時間を過ごしてほしい。何でも話せる地域でありたい。	1, 5
地域の方がもっと気軽に大勢参加していただけるような、公園や公民館を楽しく親しみやすいものにする団体になりたいと思う。	1, 5, 7

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
私たちのメンバーは兵庫県認定の音楽療法士とその資格のための勉強中の者で構成されている。育成された後は兵庫県、地域にその音楽療法で学んで得たことを広めるという役目があると考えている。日常生活とはまた少し異なった時間を提供し、心身ともに音楽で活き活きとなるような活動を続け、参加型コンサート（音楽療法的活動）で地域の皆さんの心身の健康維持のお役に立てればと考えている。	1, 5, 7
余剰食料品を活用して、生活困窮世帯・下宿学生や福祉施設を援助するという考えがより多くの市民に受け入れられ、 (1)寄贈食料品の量が十分に確保できるようにしたい (2)フードバンクの主旨にに賛同して、活動に参加してくれる新たな会員を獲得したい	1, 5, 9, 13
①団体としてやってみたいこと…近くに住んでいる顔なじみが日常生活のちょっとした困りごとを手助けする支え合い活動　②どのような団体になっていたいか…お互いに「助け合い支え合える」関係を築き、気軽に相談したり、活動の仲間を広めたり、地域住民の思いをつなぎながら暮らし続けられる町づくりを目指したい　③活動地域がどのようになっていればいいか…地域の集まりの場が活気あふれる場となるよう、住民同士の交流やふれあいを大切にする。活動を通して新たな生きがいを見つけたり、思いやりの気持ちを育んだり、住民みんなで自分たちの住む地域を活性化させていければいいなぁと思う。	1, 6, 7
3年後、5年後も今のまま各活動が続けられることを切に願っている。ただ、その時（現在でも）スタッフの大部分が後期高齢者になっている。今の活動を引き続き行なっていくためにも若い方の参加が望まれる。	1, 7
音楽を通じての地域の人との交流を深めていきたい。春の音楽会、秋の音楽会、クリスマス音楽会と、演奏に来てくださる方（南米楽器演奏者）の音楽会を増やし、四季と音楽をつないで参加者と演奏者が一緒に楽しめる音楽会を実施していきたい。広い集会室を借りている市営本山第一住宅の人たちの入居者（高齢者）もたくさん参加して楽しめる音楽会の実施。	1, 7
各地域、公民館などの活動が盛大に、ボランティアとして引き継いでくれる人があればよい。	1, 7
①現在実施中の「ミュージックサロン」「ミニコンサート」は初期の目的を達成できている。 ②高齢者の引きこもり対策としてのさらなるイベントの立ち上げを心がけたい（アイディアを模索中）。　③「ミュージックサロン」のようなイベントを全国的に普及させたい（音楽を聴きたい人と演奏したい人の出会いの場の拡大）。	1, 7, 12
・ケア帽子活動を広げていくことで、「はまなすの家」を知ってもらい、がんで悩む方々に情報が伝わることで、苦しいことをやわらげることができる会になりたい。　・がんについて普通に話すことができる地域を目指す。	1, 9, 11
・乳がん検診や早期発見、早期治療の大切さを広く地域に伝えていきたい（啓発運動） ・他の患者の会とのコラボ、勉強会などの共催をすすめていきたい。楽しいワークショップを患者交流会の中に入れていきたいと思っている。それを他の活動団体の方にお手伝いいただいて互いに交流していきたい。 ・告知後や再発転移後、ひとりで悩まず、患者同士で語り合う中、また医療スタッフからアドバイスを聞く中で患者さんが安心したり、元気になっていける会にしていきたい。その出会いが機会となり、その輪が深まったり広がったりしていく会になれたらと思う。	10, 11
もっと患者さんとの交流の場を広めて、行政・医療機関と一緒にイベントを展開したい。	10, 11
患者サロンの継続、ピアサポートの実施。介護保険などで対応がむずかしい世代やお一人で暮らす方への生活の即した具体的な支援。大きなことではなく、小さな支援の積み重ねと継続（送迎の補助…通院退院時の付添、荷物を持つ、手続きを手伝う、退院前の清掃や片付け、準備など）。地域コミュニティの場として、カフェの運営を考えている（2人に1人はがんになる時代、町の中に根付いていきたい）。	11, 13
ボランティア自身が成長するための研修を多くしたい。ボランティア団体・基幹支援センター・行政などのネットワークを充実強化。ボランティアと専門家とのタイアップ、タッグを組むことができたらよいと考える。	2, 12
聞こえない人のよき理解者として、サークル員各々ができる活動や支援を継続していける団体。聴覚障害者が安心して安全に生活できる地域になっていればよい。どこでもだれでもいつでも手話でお話できる地域（町）になるよう活動したい。	2, 13
現在神戸市内のみで家族会をしているが、兵庫県は広いので、西部・北部でも困っているご家族のために会を開催したいと思う。	2, 13
悩みを皆で分かち合う会を、少しでも続けていけたらいいなと思っている。	2, 13
・外国人児童への支援　・近隣の小学校へ掲示用の折り紙プレゼント　・福祉施設へ掲示用の折り紙プレゼント　・小学校の折り紙クラブへのサポート　・公民館の授乳室を折り紙によって温かみのあるものにする　◎高齢者ばかりの少人数の活動ですが、細く長く続けていきたい	2, 3, 5
・宝塚で立ち上げた公募展を軌道に乗せたい。　・神戸で立ち上げた居場所サロン、企画展を継続したい。　・アート交流会を巡回で行なえるようにしたい。	2, 4, 7, 12

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
・一人でもしんどい思いをしている人が少なくなるような開かれた社会（声をかけあったり、道にベンチがあって隣に座った者同士で交流ができたり）になったらよいかと。　・子どもの声を聴く、当事者の声を聴く、共感し分かち合える地域になってほしい→自団体の支援のネットワークを広げていけるようになりたい。	2,5
スタッフの子どもの年齢が上がってきて、活動内容の見直しが必要という意見があった。工作、ダンス、ハンドベル…これからいろいろ考えていきたい。今まで通り「集まる場所づくり」は続けていきたい。	2,5
大変だったコロナ禍もおさまり、一同で話し合いながら思う存分製作活動、交流活動を楽しめていることを願いたい。集会室での製作活動時間の合間、フェスタ、お遊び会などの子どもたちが遊んでいる間の時間を利用して、お母さん方に遊具づくりを楽しんでもらうコーナーを設けたい。親子で遊んでもらい、やがてボランティア活動につなげていけたらと考える。各小学校特別支援学級の子どもたちに「Gつくし」（手づくり遊具・教材）の遊具・教材を届け、笑顔でいっぱいにしたい。	2,5
今でも神戸市内全域で活動しているが、まだまだ紬をご存じない方々もおられるので、障害のことで困ったことがあれば「紬へ相談しよう！」と当たり前に思っていただけるようになっていたい。幼保・学校関係者の方々にもイベント参加をしていただいたり、交流したりすることが増えていればありがたい。次の支援先へスムーズに繋ぎ、さまざまな分野の方々からのご協力が得られ、皆さんに興味を持っていただける団体となり、障害に対して理解や応対の工夫、現状を知る場になっていたい。	2,5,12
本会の特徴は、幼児期から青年期までいろいろな年代の障害児を育てている保護者がおられる。このことは、それぞれのライフステージの悩みや知りたいことが気軽に聞ける状態にある。信頼できる障碍児者の家族のかけこみ寺の存在になればと思う。そして、行政とともに相談し、地域のいちるを照らす居場所を目指す。	2,5,7
南海トラフ地震を考えたAMDAとの通訳訓練（避難所通訳体制）。ベトナムやネパール語通訳者対象の日本語研修の強化。母子保健分野での医療通訳者の育成。これからも医療通訳の理解者を増やし、制度化を目指す。	3,13
地球温暖化が懸念されているので、捨てられてしまうものの再活用・再利用してアート作品にしたり、アートに実用性を加えたものづくりの提案をしていきたい。そして、スマホ、SNSなどにさらされて疲弊してしまっている人たちの目にリアルな絵、作品、ポエムなどに一瞬で触れていただき、心が癒されるような場面をもっとたくさん作っていきたい。駅構内のアートスペースやショーウインドウの活用を広げていきたい。	3,4,5,7,8
・子育て中のご家族が楽しくほっとできるような場を作っていきたい　・今は姫路を中心に活動しているが、オンラインなども活用し、全国的に広がればなおうれしい	5,10
活動を広げてつながれる病院を増やしたいが、スタッフ（ボランティア）が増えないため困難である。スタッフも高齢化するので、次世代を育てるようになれたらよい。	5,10
性教育に力を入れたいと思っている。他の子育てグループから依頼されて、性のお話し会をしたり、活動を広げていきたいと思っている。地域での親子の居場所であり続けたい。困ったことがあれば行こうと思える場所を作っていきたいと思う。	5,10
もっともっと必要としている親子さんにつながり、仲間を増やし（オンライン）、大きな母体グループとなり、、、リアルポップスクールも全国各地での拠点を作って、子どもやお母さんたちの安心ややすらぎの空間を増やし、つなげていきたい。拠点づくりの後押しやサポートにも力を注ぎ、また、そのつながった仲間や子どもたちとの合同修学旅行をして、更に心の安定と仲間が居る心強さを体感してほしい。	5,10,12
2025年、TFTは20周年を迎える。2023年（今年度）中に20周年イベントを企画立案し、2024年度に実動（準備）、2025年に形にするという計画を立てている。OB、OG、その他今までTFTに関わってくださった方々を巻き込んで、TFTがさらに飛躍できる機会となるようなイベントをしたいと思っている。若手スタッフに企画などを任せ、現運営陣はアドバイザーとして関わるという形も考えている。	5,12
子どものワークショップを定期的に行なっていきたい。継続していける団体、地域の他団体との連携ができる団体。	5,12
拠点を持ちたい。いつ来ても誰かがいて、何かしらコミュニケーションがとれ、リフレッシュできるような場所。また妊娠・出産・育児について、助産師や保育士・栄養士など衣食住に関わり、専門性も備える支援者、また様々な方法、多様な考え方のもと、より安心できる場づくりになり、ひとりきりで頑張るママがいなくなる地域になればいいなと思う。	5,13
古着チャリティショップ事業。現在はともしび助成金に非常にお世話になっているが、1年後にはエコベ自身の活動で活動資金を集め（収益を上げ）、地域活動やイベント主催していたい。チャリティショップでの売上は活動資金はもちろんのこと、地域の子育て支援団体へ資金援助できるようになりたい。	5,13
おやつづくりのレパートリーが増えていること、そのためには、スタッフが増えてスキルアップしていたい。スタッフが増えれば、月2回に活動を広げたい。ご近所さんに活動していることを知ってもらうため、ポスターを作ってみようと思案中。	5,9

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
ひとり親だけでなく、地域のいろいろな課題をつなぐ役割として団体が成長できればと思っている。神戸西地域の活動を明石市内や近隣市でも同様にやっていただける方を募り、継承していきたいと思う。	5, 9, 10
＜まちづくり＞	
地域の文化・歴史を学ぶ人たちの集団を作成したい。その中心に我々ボランティアが存在したい。⇒一般市民、子どもたちに文化・歴史の「すごさ」「大切なもの」であることを知らせた	7
・コロナ前以上に団体・個人のグループを案内したい　・今以上に地域の方と仲良くなり活動を理解されたい　・ガイドの高齢化が目立ってきた。若い方のガイド仲間が増えてほしい	13
活動場所を広げた分、資材(花や腐葉土）の必要量が増えたこともあり、少し貧相に感じることがあるため、今後は花を種から育て、土は腐葉土を活動の1つとして自分たちで作ることを計画中。コロナの影響をあまり受けることなく、活動メンバーも微増したので、今後はさらに幅広い活動ができると考えている。	1, 4, 5, 6, 7
探訪ツールの充実（資料、写真など）	1, 7
地域それぞれの活動団体の特色を活かした連携ができればと考える。年間カレンダーをつくり、春夏秋冬、それぞれの団体が助け合えるつながりができればいい。	4, 5, 6, 7
地元の方や子どもたちにとって、身近な存在となっていたいなと考えている。現在、活動拠点に行き、学生カフェ運営に向けた準備を長くしている途中です。そのため、年に数回するイベント以外では、学生（サークルメンバー）と地元の方とがしっかりコミュニケーションをとる機会がない。メンバーを増やし、活動頻度を増やし、カフェ運営の目途が立てば、月に数回足を運ぶなどし、地元の方にとっても日常の一部（私たちが篠山にいること）になるのではないかと思う。私たちのカフェづくりの活動で住民間の会話が増えたり、学生と地域のことについて話せたら、そこからいろんなイベントを地域全体でできるようになる、なりたいと思う。	4, 5, 7
メインの内容、大きな方向性はぶれず、変えず、従来からの活動をコツコツ地道に続けていきたいと思っている。そのために、協力していただける方、サポーター、メンバーを少しずつ増やし、アートとものづくりで人々の交流・笑顔を増やしていきたい。メインとなる親子・主婦だけでなく、学生、フリーター、社会人、アーティスト（卵を含む）、高齢者など多世代が交流できる機会を継続して増やしていきたい。東播磨を中心に明石・姫路・神戸の団体・行政・学校etcと交流を広げ、活動を広げていきたいと思っている。	4, 5, 7, 13
・地域の他の団体と手を結び、一緒に地域を盛り上げること　・市、地区、町など、行政とのコミュニケーションがもっと簡単に身近なものになっていること　・新しい後継者が出てきていること	5, 7
＜防災・減災活動、地域安全活動＞	
・2年後に阪神淡路大震災から30年、当会発足より20年を迎えるにあたり、朗読を通して「生きる力を育み、未来へつなぐ」ため、心新たに震災を風化させない活動を続ける。　・団体としてやってみたいこと…被災された人々に寄り添う朗読を心がけ、神戸の防災・道徳教育に参画し、一役を担いたい。　・どのような団体に？…被災者の苦労や努力を自分に置き換えて朗読ができるよう研修・研鑽を積み、取り組む団体でありたい。　・活動地域がどのように？…災害発生時などいざという時に助け合える心を育てるため、郷土にまつわる資料を朗読したり、地域行事にも参加していきたい。学校での出前朗読に地域の方の参加を呼びかけたい。	6
体育館などを使った1泊2日の避難所体験を実施したい。少子化が進んでいるとはいえ、毎年生まれる子どもたち、入園・入学する子どもたちがいる。その子どもたちの命を災害から守るため引き続き市内で活動を続けていく。	6
・拠点設立　・活動を通じて心優しいボランティアさんたち同士がつながっていき、日々を楽しく過ごしてほしい　・心ある他団体とコラボしていきたい　・高校、大学で写真洗浄を行なうキャラバンを広げたい	4, 5, 6
阪神ボランティア無線クラブへ改名し、尼崎在住者のメンバーを増員、尼崎社協や行政などへの働きかけを行なっていきたい。阪神間以外へ広げる予定はないが、同様の活動を行ないたい団体が出てくれば協力を行ないたい。	6, 7
＜人権擁護・平和の推進活動＞	
・人権擁護団体として、県内の精神病院に入院中の方と対話がオープンにできるようになっていたい。　・安心してかかれる精神病院があり、ご近所の方に受け入れられ、精神障害を抱えながらも地域で安全に暮らすことができるようになっていればよいと思う。	2
＜多文化共生（多世代交流）＞	
・NPO法人と合わせて、地域に活動拠点を設けること　・在日本ミャンマー人の生活全般にわたる支援ができるよう、領域を広げること　・支援するボランティアの拡大充実を実現させること　・定住外国人と共生的な社会が実現すること	3
これまで1年を通じて教会での支援をしたことがない（あちこち教室を借りての支援であったので）。ずっとここで継続して支援をすることで、教室の存在を地域の人々に知ってもらい、日本語を通して何かのお役に立てればと思っている。団体のメンバー1人ひとりが教室の存在の意味を理解し、各自教室に関わる仕事を分担してやっていく意識を持ってほしい。	13

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
人と人がつながり、互いに学べる企画を考えて実現していくこと。多世代交流もすべての世代に共通していることは、コロナ禍でもはっきりしてきたテーマ「健康・笑顔・平和」ではないでしょうか？　一人ひとりが家や小さな社会に入り込んでしまいがちな風潮に対して、何かできることは？と常に考えていきたい。須磨を中心に発信していきます。	1,2,3,4,5,7
・あるもんで交換会の尼崎6地区の連携　・ごみ拾いでつながろう大庄トングマン尼崎6地区の連携　・食によるエコー活動　・畑で種や苗から野菜を育て、収穫祭で「まるごと利用レシピ」で料理を作り試食をする	1,2,4,6,7,8,9
今最大の課題は、参加者や参加世代・層の拡大。4月8日に開催した「新1年生をお祝いする会」にご参加いただいた新1年生16名のうち、2丁目（公営・公団住宅）からの参加者は1名のみ。それはシニア向けのプログラムでも同様。広報にも工夫をして、3年後までには徐々に2丁目からの参加者を増やしたいと考えている。また、今年度から地域で活動する他団体とイベントの共同開催を考えている。高層住宅ばかりで、ご近所付き合いが希薄なこの地域で、私たちが開催するイベントや講座、カフェにご参加していただき、顔見知りとなることで穏やかなつながりができる。そのつながりを作るのが私たちの活動であり、3年後もそれは変わらない。その小さな活動の積み重ねで、3年後、地域の活性化に少しでも寄与できていたらうれしい。	1,4,5,7
とにかく人材の育成をしていきたい。ほとんどの子ども食堂や団体が高齢化でボランティアの担い手がいない状況だから、活動をまとめて協力してやっていくか、無償ではなく企業や行政が職業の1つとして助成していくように促したい。若い人の雇用をしていきたい。	1,4,5,7,9,12
子パンダ会。メンバーが親子連れでわちゃわちゃ集まる会が定着し、地域の方も気軽に親子連れで参加できて、シニア世代も応援参加で、多世代交流ができたらいいなと思う。	3,4
【団体としてやってみたいこと】一番は学生支援。学生と言いながらも学費を稼ぐためにアルバイトをしてわずかなお金で生活をしている。労働制限の中、日本人がやらない労働をしている。学生たちをサポートして日本を好きになっていただき、日本の未来につなげていきたい。 【地域がどのようになればいいか？】これから日本も外国人のマンパワーが必要になると思うので、外国人に対する理解と、逆に日本人の外国人に対する相談できる場所でありたい。	3,5
現在は無償ボランティアですべての活動が支えられている。しかし、将来は少なくとも学校という教育の場で活動する「CoCoCara高須西小学校教室」でのボランティアにはわずかでも有償という形をめざしていきたいと思う。	3,5
実施している事業のうち、1つでも多く教育現場へつなげる事業にしていきたい。教育支援を行う団体を目指す。現在西宮を中心に活動しているが、姫路・淡路・丹波etc広い範囲で、各地域に必要な内容の活動を展開できるようにしたい。	3,7
現在は、児童センターの子どもを中心とした居場所づくりを通して、高齢者や障がいのある方、ひきこもりがちな方との交流を少しずつ広めていっている。今後は、より交流を深めるために気軽に参加・交流をするとともに、生活困窮世帯の方々への支援にもつなげていきたいと考えている。具体的には子どもとボランティアメンバーで「おやつ」をつくり、「子どもカフェ」を開催して、地域の方々にも広く声かけをして、地域の居場所の拠点のひとつとなればと思っている。	4,5,9
・地域の活性化・つながりづくりのために、地域の資源（住宅、店舗などの空スペース）を有効活用し、小さないろんな人・団体が協働する状況が生まれ、居場所・つどい場やふれあい喫茶などがたくさんできること。昨年10月に施行された協同組合法を活用していきたい。	4,7
商工会や地域の他団体との協働もすすめていきたい。	5,7
＜子どもの健全育成＞	
今、神戸市内に8病院ある。西宮に2病院ある。神戸市内の各区に病院を開院し、近くに住んでおられるシニアの方に参加いただき、地元の活動として親しんでいただけるようにしたい。	1
○子どもの居場所として定着したい。保護者間の交流会をしたい。　○子どもと高齢者間での交流ができるようになっていればいいと思う。	5
・絵の具遊びを通して、心が開放される遊びを取り入れているが、そのような遊びをたくさんできる場にしていきたい。「こうしなさい」と言われることなく、自由に表現することを親も子も経験し、その上でスタッフとの子育ての話などもしていければと思う。　・子どもたちの声がいつも聞こえて、それを大人がほほえましく見守るというスタイルが定番になっていってほしい。	5
・子育て支援（ママ・パパカフェ）　・子どもたちと「楽しい体験」を通して気軽にいろんな話ができる子ども食堂になればと考えている。	5
①図書館で毎月決まった日に“おはなし会”をする　②図書館司書と協力し合って図書館活動を盛り上げる団体　③市内に増えてきた“子ども食堂”に当たり前のようにおはなし会をすることができる	5
今、神戸市長田区から1名参加、それ以外は北区の子どもたちである。神戸市全域から来てもらえるサークルになり、三世代で活動するすばらしさを発信したい。	5
今現在メンバーの平均年齢が70歳ぐらいなので、多くの若い方に引き継いでもらい、より元気なグループ活動が続けられる団体になれたらと願う。	5
お弁当は家庭、会食は子どもたち同士の交流・助け合いの場ですが、子どもたちと交流したいと思われている高齢の方や、普段の日は仕事で忙しくされている方、街全体で集まって誰もが楽しめる機会が作れたらよいと思っている(秋まつりなど)。	5

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
講師を招いての講演会など。児童館でのおはなし会の復活。活動地域について…50年間西須磨地域で活動しているので、このままの状態でよいと思う。遠い地域に行くとなると交通費が発生し、メンバーの負担になり、活動が続けられなくなる。	5
子ども食堂を始めて6年になる。市内に子ども食堂がうちしかないが、できれば中学校区に1つはほしいので、行政とも連携しながら事業を拡大し、子ども食堂を増やしていきたい。小さなコミュニティがたくさんある地域になればと思う。	5
どこでも人形劇の公演が安心して見てもらえるように、コロナの終息を願っている。団体としては、たくさんの子どもたちやいろんな方に楽しんでいただけるよう、長く続けていきたいと思う。	5
メンバーの高齢かもすすみ、正直言って現在の活動を質量ともに維持していくことが目標。地域のお母さんたちに担い手となってもらえるよう活動を通してピーアールしていけたらと思う。	5
2年半後の2025年秋に、宝塚市で全国紙芝居まつりを開催する予定。そのために、今市内で紙芝居を普及する種まき活動を続けている。全国から紙芝居に携わる人々が3～400人規模で終結し、紙芝居について学び、情報交換を行なう。地元の人たちにも参加して紙芝居を楽しんでもらう企画をいろいろ計画している。それを機に地域の活性化や、紙芝居文化を使った幅広い層への地域交流を活発にできたらいいと考えている。	1,2,3,4,5,6,7
特にない。今まで通りやっていきたい。	全て
・絵本文庫があることで、認知度も高まり、そこに集う人たちとの交流が増えていく。そこから、何か新しい発見や広がり、活動が活発になっていけばうれしい。　・他の団体や地域の人たちとの参加・交流の場となれば。	1,2,3,4,5,7,10,12
ヤングケアラーや一人で生活するシニア世代にとって、Teddy Bearの活動がつながりづくりや友だちづくりの場となり、知り合いとして地域が元気になる一助となる活動ができるようになっていたい。	1,2,3,4,5,9,10,12
・顔と顔の見える間や生の声での語りや絵本の読み聞かせをすることで、あたたかい心や生命の大切さを伝え続けていきたい。 ・時間と人材が許す限り、出前おはなし会などに出向いていきたい。	1,2,5
・スキル向上とより多くの方との活動を広げていきたい。　・子育て世代の若いお母さん達にボランティアとして活動に加わっていただき、サークルくれよんの後継につながっていってほしい。	1,2,5
○やってみたいことは、春・夏・冬休みに毎日開催して子どもたちの学び・遊び・交流。自分たちで食事を作って皆で食べることを行ないたいが、場所が狭いため、少人数に限られてしまうので、どのような方法で行なうのがいいのか今後の課題として考えていきたい。 ○ボランティア一人ひとりが子どもたちと共に活動して、保護者も参加。皆で子どもを中心に見守りながら共に活動していきたい。 ○晴れるやとしての活動地域は、来られる方から「実家のようだ」、スタッフは「お母さんみたい」と言ってもらっているので、このままの支援方法で続けていけたらと思う。	1,2,5,9,10,12,13
・メンバーの高齢化で公演道具の運搬などが徐々に困難になりつつある　・音楽演奏等手軽に公演できるスタイルに変えていきたい	1,3,5
団体としては、引き続き地域の子どもたちやその親御さん方、また一人暮らしの高齢者の方々への食の支援を通じて、子どもたちの健全育成や地域のつながりの拡充に努め、こども食堂を細く長く継続していきたいと思う。合わせて、学習指導や農業体験、季節行事等の子ども向けイベントはもちろん、保護者向けに子育てや子の発達障害などについて学ぶ機会を設けていくことを計画している。そして、地域の方々にお心寄せ、お力添えをいただきながら、地域にとってなくてはならない存在に成長していきたい。なお、団体の活動地域については、より深く地域に根差した活動が展開できるように、変わらず豊岡市城崎町を中心に据えていく。	1,4,5
「青山という地域」＝「お金が必要のない地域」にすること。衣食住すべてゆずり合いの地域にすべく、団体としてリーダーシップを発揮する。子どもとシニアが寄り添い合える場所として認知されたい。	1,5,7,9
・スタッフの資質と技術がより一層向上していたい　・活動範囲がより広まって、絵本の読み聞かせの大切さをより多くの人たちに理解してもらえていたらうれしい。	2,5
大学生のボランティアを入れて、親子と一緒に楽しく遊べる空間を作りたい（大学生と交流を持って、SNSの広報の仕方なども習いたい）。また、時には母親だけが別室でおもちゃづくりやしめ縄づくりの体験ができる教室を開きたい。将来各種イベントから声がかかり、子どもが遊べる空間を提供できる団体になっていたい。	2,5
①遊びで親子がどのように変化（発達や関わり方）しているか研究や実録をまとめて冊子にしたい。　②相談を受ける子育てについての情報をまとめて冊子にしたり、行政へ伝えたい。　③自分たちのノウハウや情報を地域のために親子へ届けながら収益事業として定期的な資金を確保しながら運営にあたれる団体になりたい。　④地域サポーターが増え、他区でも子育てピアサポートが行なえるように、地域を広げられるとよいと考える。	2,5,7

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
イベント活動のように集まる場だけではなく、いつでも来れる・集える拠点を持ちたいと思っている。それに伴い、障がいのある方々が地域の人とお知り合いになれる、共に関わり合えるような空間を作りたい。 【活動地域がどのようになっていればいいかについて】（質問が少しむずかしいのですが…）お互いに知り合おうと思うことがまず大事で、必要な人に必要な情報が届くとよいなと思う。	2, 7, 9
スタッフの年齢も高齢化に向けて、出張おはなし会は終了する方向で考えているが、家庭文庫は今後もできるだけ長く継続できるようグループで話し合いを重ねている。図書について利用者から尋ねられることに対して、すぐに対応できること。また、この活動が、利用者にとっていつも変わらず居心地のよい空間と感じていただける場所であることをアピールしていきたい。	3, 4, 5, 7
多世代の交流も行ないたいと思っている。語りの文化を広げるとともに、子どもが多世代との交流を自然にできる小さなイベントも考えている。文化・文芸・文学を軸としたコミュニティづくりを目指している。	4, 5
当団体の子どもたちがよくお世話になる遊び場を月に一度、あるいは週に一度は清掃活動をし、他の子どもたちにも清潔で安全な遊び場を提供できるようになりたい。	4, 5
親子の定期交流、大きなイベントができればと考えている。以前よりも親子サークルなどが増え、子どもを連れてもっと出かけられるようになってほしいと願う。	4, 5, 10
１．活動目標：①子ども会＝「異年齢の活動集団」という住民認識の定着→子ども会＝小学生という意識を払拭する。乳幼児と保護者（子育て層）、青年層、シニア層への積極的な広報、アピールをする。　②「青少年の健全育成」という設立目的に沿った活動→指導者による活動誘引から、子どもたちによる自主活動への移行をすすめる。自主活動のため、中高生徒のリーダー、青年のシニアリーダーを育成する。　③フィールドで汗をかく「活動集団」としての理念の継続→次世代の子ども会に向けて、乳幼児と保護者（子育て層）向けの事業を拡充する。　④無人島キャンプの実施→実施が可能な指導者、心身ともに自律した子どもを育成する。財政基盤を強化する。 ２．団体目標：「児童青少年育成」なら子ども会、と言われる存在を目指したい。 ３．地域希望：地域の各種団体が有機的に協働し、地域力が向上することを望む。	4, 5, 6, 7, 8, 9, 13
・子ども食堂の拡充：一堂に会する食事会だけでなく、もう少し自由に来て食べ、居ることができる場を備えたい。　・他団体との連携：地域で行なわれている活動のスケジュールを一覧でまとめ、対象の学校で配布し、各団体、特に子どもを対象にしている活動の取りまとめをしたい。今でも児童館と青年育成協議会、それとふれまちと協力して地域のお祭りを開催している。これを柱として、子どもたちが地元に愛着が持てるようなつながりのある地域にしていきたい。	4, 5, 7, 9, 12
地域のイベント参加をきっかけに、地域の方と交流する場を増やしていきたい。また、自分たちからそのようなイベントをやってみたいと思っている。高校生である私たちが大人と子どものパイプとなり、地域の良さを広め、盛り上げるきっかけを作るような団体になりたい。また、一度離れてもまた戻ってきたくなるような場所になってほしい。	4, 6, 8, 9, 10
H17年に発足した時は、島内の子育て世代が遊んだり学んだりする場がほとんどなく、「自分たちで作ってみよう」という自主的な動きがあったそうだ。細く長く続けていくことが、これからもできればいいなと思っている。育休中のママ、就学前の子どもたちが対象なので、メンバーの移り変わりが多いが、「昔どんぐりんに来ていました！」という次の世代の親子が集っていける場であればうれしい。	5, 10
子育てママの支援を主にやっているが、お年寄りとの交流を増やし、どちらにとっても暮らしやすくなるように団体としてサポートしたい。近くにおじいちゃん、おばあちゃんのいない子どもたちに「老いること」に直接触れてもらう。また、パパ・ママ世代が力仕事や手続きなど、お年寄りが苦手とする作業をお手伝いできるといいと考えている。地域として「思いやり」を大切にしたい。	5, 10
・困ったことや話を聞いてもらいたことなどがある時に、安心してふらっと立ち寄れるような場を提供できる団体になっていたい。　・そのためにも場所代などを気にせず活動できるようになっていたい。　・当事者の先輩ををお呼びして経験談を伺いたい。　・地域の学校が困りごとを抱えた子どもたちに寄り添える環境になっていてほしい（校内にフリールームを作る。校内で不登校の親の会を開く〔私たちが開くという意味ではなく、それでもいいが…〕。制服などの多くの規則よりも、子どもがのびのびと学べる学校へ）。　・学校以外での学びに理解のある地域、さまざまな子どもがいることに寛容な地域になっているといいなと思っている。	5, 12
学習支援塾（本事業）が各中学校区に広がること。国・行政の財政で運営できること。	5, 12
学校、PTA、SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）、コミュニティスクールと連携・協働し、校内フリースクール、校内居場所カフェ、校内不登校親の会を（現在、校区内小学校で月1回3時間トコトコサテライトとして開催）常設できるように少しずつすすめたい。今まで通り、安心・安全で居心地のよい居場所となりたい。誰もがひとりで抱え込むことなく、気軽に助けてと言える、より優しくあたたかい地域になっていればいいと思う。	5, 12

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
地域における子どもの居場所の団体となっていたい。無料の学習室、遊び場、食堂の一体型施設をやってみたい。【学習室】：家庭の事情・発達障害による学力格差を本人の向上心を尊重しサポートする場。サポート指導者は地域のボランティア。フリースペースの機能を持たせたい。 【遊び場】：おもちゃ図書館としての機能を充実させ、０歳～高校生が過ごせる場。見守りに地域の方に入っていただき、世代間交流の場としたい。【食堂】：学習室・遊び場を利用して、そのまま食堂で食事もできるようにし、子どもの孤立を防ぎ親に安心していただける、また親子で利用できる施設としたい。 地域のボランティアで子どもたち、親子を支える地域となっていればよいと思う。	5, 12
乳幼児を含む若いお母さんたちとつながり、活動の後継者を育てたい。えほんくらぶの活動（ストーリーテリングや読み聞かせ）が地域の小学校、保育所等で定期的に続けられていることが望ましい。	5, 7
まだメンバー間でゆっくり遠出したことが一度もないので、一緒に図書館めぐりをしてみたい。地域に根差した活動を通じて、子育て中の若い世代とシニア世代とをつないでともに楽しめるおはなしイベントができると素晴らしいと思う。活動地域は少し広げて、学園東町（同じ中学校区）の団体ともコラボできたらいいなと思う。	5, 7
活動はちょうど4年目でだいぶ認知もされ、わかってきたことも多い。一方で今までスタッフの熱意だけで動いてきた部分もあり、そのためスタッフが疲れて、離れてしまった人もいる。そこで、末永く持続し、地域に当たり前のようにあり「この地域で子育てできてよかった」と思われる支援をし、地域で子育てできるようにしたい。	5, 7, 10
・サマースクールなど数日間の大きなイベントをやってみたい　・多くの人に活動を知ってもらい、応援していただける団体になっていたい。活動の輪が広がり、子ども食堂がない日でも、常に子どもたちを見守っているような環境ができればいいなと思う。	5, 7, 9
・フードバンクやフードドライブを行なえる団体になっていきたい。　・三木市の子ども食堂を一同にして、ネットワークを広げ、こちらは「いらない」、こちらは「いる」、横のつながりをもって活動していきたい。	5, 9
・ふたたび会食形式に戻していき、温かい食事を提供したい　・キッチンカーでのイベント　・スタッフが増える	5, 9
・少しずつ参加人数も増えて、新しいリーダーも参加者の中から育っていってほしい。　・母親たちが自分たちの望む子育てと自然との関わりを形にしていける団体になりたい。ex)①どんな庭にしたいかを自分たちで工夫してつくる。②イベントも企画できるようになる。③活動資金を少しでも集められるように販売もする。	5, 9, 10
＜食と農・食育＞	
①子どもと高齢者の交流イベントを4回程度開催したい　②障がい者の方も参加できるようにしたい　③企業とタイアップしてやっていきたい　④留学生の支援をしたい　⑤地域活性化を図りた	5, 7, 9
現在力を入れている「（食・農に関わる）“人”“モノ”のブランディング」「スタディツアーなどのコーディネート」「（農家さんと連携した）商品開発」に加え、「農福連携」「規格外・フードロス農産物の活用」「農業×〇〇（別分野）のコラボ」など幅を広げていき、地産地消／地消地産はもちろん、より多くの消費者に「地域の農業を支える」購買行動（＝消費者意識の向上）を促していきたいと思う。活動の幅も広げていきながら、仲間を増やし、多くの地域の方々も巻き込んで一緒に食・農に携わっていきたいと思う。	7, 9
里山をテーマに多世代が集い、交流できる場を創る。正式なメンバーでなくても、参加・企画できるようなゆるやかな人のつながりが生まれることを期待している。	8, 9
＜環境＞	
「東灘の梅」を地域のブランドに仕上げていきたい。「梅香るまち」にしていきたい。	7
（個人的な意見）・10年近く活動している。毎年メンバーの登録を年度初め（4月）に行う。その毎に本人や家の事情で数名が退会する。理由は高齢化による健康の問題が主なもの。従って今のメンバーができるだけ継続して活動できることが希望。安全に健康に留意した活動に注力していく。　・地域の子どもと年に2回交流している。いつも大盛況で楽しく過ごしている。今後も継続していく。	8
・活動地の頂上まで道をつけ登りやすくすること　・地域の人や遠方からの参加者とともに休憩する場所を作るような団体になっていたい　・地域の道路から見上げると頂上に人が見えて、昔会員の遊び場であった里山に、もう一度子どもたちが戻ることができるようになっていればいいと思う	8
①会員数もじり貧状態にあり、高齢化もすすんでいるので、できるだけ省力化を考え、可能な範囲での機械化をすすめ、効率よく作業できるようにして、活動を維持できる基盤を作りたい。 ②「協働による森づくり」を通じて、自然に親しみながら友人づくりをすすめていく、そのような人々が集える空間でありたいと思う。	8
①地域住民にとって「憩いの森づくり」をやり続けて認知してもらいたい　②子どもたちが気軽に遊べるような「森づくり」になってほしい	8
コープこうべでの学習会を中心に行なっているが、少しずつ学校・消費者協会など他団体からの依頼も増えてきている。今後は幅広くいろいろな参加者に環境教育を行なっていける団体に成長していきたい。	8
草原生の植物や生物多様性の保全のためには、この活動を続けていかなければならない。そのためには地域の方に本地の重要性を知ってもらい、関心を持ってもらえるようにしたい。	8

Q6.団体としてやってみたいこと・どのような団体を目指しているか、活動地域がどのようになっていればいいと思うか	
良好な里山を維持するためには、継続して手入れをし続ける必要があると考える。また地域で育った子どもたちが、この地域をふるさとと考え、帰ってきたいと思える状態にしておきたい。そこで地域の小中学校と協力して子どもたちに活動に参加してもらい、将来の里山の活動の中心となる人材に育ってほしい。	8
三木市民の健康づくりに寄与できる雌崗山毎日登山会はその原点であり、参加者の増加を期待したいと思う。	1, 7, 8
・ゴミ問題（環境問題）を主とした駅前でのイベント等　・誰しもが楽しんで地域貢献できる団体　・団体活動を通して1人でも多くの市の美化意識が高まればと思う	4, 7, 8
・自治会活動の重要性を若い世代にも理解してもらえるような活動　・若い世代が自治会活動に積極的に参加したり、参加できるようになる活動	4, 7, 8
気候変動の影響により豪雨が頻発している状況に対応できる武庫川になるような土木行政を求めていきたい（洪水を防ぐ、洪水になっても被害を最小限にとどめる）。一方で市民が親しむ武庫川づくりをすすめていきたい。武庫川の自然環境を保全する取り組み（川清掃を含む）を市民参加で行ないたい。	5, 6, 8
当クラブを利用している小中学校には、私達の活動を理解してもらっている。年間行事に組み込まれており、毎年利用してもらっている。今後は、他の幼稚園や保育園などの幼児にも参加してもらえるようなプログラムを考えていきたい。また、当クラブで栽培・収穫した野菜を地域の人々に買ってもらえるような機会を作っていくことで、当クラブへの理解を広げていきたい。さらに、地域の夏祭りや防災訓練などの行事に、クラブとして何らかの形で関わっていくことで、クラブへの理解を深め広げていきたい。	5, 8
次の世代への交代を終え、新しい取組みをスタートさせてもらいたいもの。地域のさまざまな団体との交流・連携がすすみ、連助関係が構築できるようになっていれば幸いだ。	6, 8
・今世話をしている「ポケットかだん中央」が殺風景な駅前の「ささやかなオアシス」として定着することを願っている。　・グループメンバーに新しい人が入ってくれることを願っている。今までの経験からやはり自宅が現地に近い方が望ましい。　・花の選び方、育て方、緑の植物など、メンバーの知識が増える活動も行ってみたい。	7, 8
とにかく構成員数を拡大したい。	7, 8
放課後デイ、不登校児、オルタナブルスクールなどの利用が年々増えてきた。子どもたちの安全を第一にした整備活動を継続したい。危険を伴う作業も多いので、心身活発なメンバーの参加を切望。	8, 12

市民活動交流会での交流テーマ

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか

■右の列の番号はＱ１で回答された活動内容
1. 高齢者支援　2. 障がい者支援　3. 多文化共生　4. 多世代交流　5. 子育て支援、子どもの健全育成
6. 防災・減災　7. まちづくり・地域おこし　8. 環境活動　9. 食と農・食育　10. 女性に向けた支援
11. がん患者・家族の支援　12. 不登校・ひきこもり支援　13. その他

＜福祉＞	
お互いの団体同士で活動の支援交流できることがあるかどうか？	1
がん患者、家族の会等、特化して対応されている分野。場所の確保	1
高齢者さんと園児さんとのふれあい	1
子ども食堂の運営。	1
この度はこちらの事情で中止させていただくことになったが、今までのご支援をありがとうございました。特に食品や飲み物、折り紙などなかなか補助が出なくて苦労していたので助かった。	1
自分らしくいられる居心地のよい空間とは？	1
地域・行政との関わりを持つためにどのような活動をされているか伺いたい。	1
地域でどのようなニーズがあるのかを知りたい	1
どんなテーマでもいい	1
認知症の方々が増加してきて、開催時刻間近にTELでお誘いしているが大変で、認知症の方々対象にされているグループがあれば交流して学びたい。認知症の方々に病院で対応した経験もあるが（病院でナースとして）、地域では全く役に立たず、まして家人をみるのも役に立たず、むずかしさを日々痛感している。できれば認知症の方とその家族の安らぎの場所を作りたいと考えている。	1
同じ地域の他の活動を知ることによって交流の深まることもあると思う。「互いの活動を理解する」というようなテーマかなと思う。	2
グループの人数が多いと、いつも自己紹介だけで終わってしまうので、ゆっくり話し合える人数がいいのではないかと思う。	2
今年度初めて助成金交付をいただいたので分からないことが多い。地域の中で何ができるのか、どのようにしていけばよいのかなど、今後どんなテーマで交流できるか考えていきたい。	2
自分たちの活動で大切にしていることは何ですか？	2
地域の困りごとを解決するために、今日・今からすぐに私にできることは？	2
テーマ「障がい者と一般の人との共生、共存について」。※できれば、福祉系同分野交流をしたい。その方が活動の発展のヒントや協力が得やすいのではと思う。	2
長く会を維持されているサークルの秘訣を聞きたい。	2
ボランティア同士の交流も大切だが、利用者の声を聞く場がもっとあればと思う。「利用者とボランティアの交流会」	2
異なった内容で発見があるのでどこでもよい。	5
異なる分野から新しい視点に気付く。コラボレーション、新しいチャレンジ。異分野だからこそ、気付き合えることがあったりする。良い点、悪い点をざっくばらんに交流できるといい。	5
自分たちの活動を紹介し、一緒に他の団体の方とできることがあればお話ししてみたい。	5
どうしたら協力し合えるか	7
がんであってもなくても市民が生き方を考えるには？　自分らしく生きる。命を使うとは？　自分の持ち前を使ってどう社会に貢献していくか？	11
どうしても知っている分野に知識が片寄り、活動が狭くなる。いろんな分野で活動されている方のお話が聞きたい。	12
それぞれの立場でのそれぞれの人の考え方を知りたい。地域別とは、それぞれの地域でということですよね。自分の住む地域ではどのような活動があるのかを知って、少しでもつながりが生まれるような交流会ができたらと思う。	13
それぞれの団体の活動の源について	13
特に思いつかないが、他の団体の意見や様子を知ることで参考になることが多い。要約筆記の活動は不特定多数な場面も多いので。個人的なノートテイクの依頼もコロナ禍以降少なくなっている。交流会は皆さんの意見が聞けるので勉強になる。	13
よく分からないが、参加はしたい。	13
笑顔でつながる地域社会	1, 13
行政や社協などと連携することで、どんな効果や変化が生まれたかを、他の団体の方と意見交換したい。	1, 13
・ボランティアの確保、継続、高齢者の見守り、認知症対応などの勉強会の方法　・地域自治会（会長）との連携の取り方	1, 2
同じ目的を持った人たちと話して情報交換をしてみたい。	1, 2

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか	
他のグループのメンバーの方々との交流をしたい。「えっ！？」こんなグループあるの？と思うようなグループを映像などで知りたい。ボランティアされている方がの年齢を知りたい（例：学生、男性、高齢者）。	1, 2
・具体的にどんな流れで何をメインとして活動を実施されているのか？　・各月のイベントのボランティアの方々の紹介や交流ができることを希望している。	1, 2, 4
よく分からないので、楽しみに学びたいと思う。	1, 2, 4, 5, 7, 9, 12
①ボランティアの人材確保　②団体同士の横のつながり	1, 2, 4, 6, 7, 8
コロナの中にあって、各グループさんの活動内容はどういう活動なのか？	1, 2, 5
SDG's、共同開催の機会づくり、それに向けての交流	1, 2, 5, 10
マジッククラブのメンバーを少なくとも10人の部員にしたい。今までの募集活動は、①加古川広報に募集依頼。　②『かこむ』にポスター掲示依頼。　③全員で手分けしてポスト投函。　④いろいろな交流会に参加した時に、募集チラシで依頼。以前は門前でチラシ配布をしていたが、苦情が出たので中止している。	1, 2, 5, 7
地域別異分野交流において、社会問題や環境問題などのテーマで交流したい。異なる地域が抱える社会問題について共有することで、問題解決の方法や社会的責任に関して団体同士の認識を深めることができると思う。また、異なる地域での環境問題についての交流を行うことで、どのような取り組みが求められているのか、お互いの意見を出し合うなど多くの話題共有ができると考える。	1, 2, 5, 7, 8
異分野交流については繰り返して行なう価値があると思う。若い活動者を交流したい。	1, 4
個々の団体の良いところ、悩みどころなど交流の場で話し合えればと思う。	1, 4
世話役の高齢化と後継者問題。	1, 4
若い世代にどのようにすれば参加してもらえるか、他の団体ではどうしているのでしょうか。	1, 4
サークル同士の交流	1, 4, 5
・新たなボランティアを募集したりしているが、ボランティアをどのように探しているのか　・活動するための資金をどのように得ているのか　・他の団体と協力して活動することがあるのか	1, 4, 5, 7
異分野の社会資源を知りたい。どのような分野がどのように地域と関わっているか、情報収集し、自分たちの地域活動に活かしていきたい。また、他グループの運営や成功の秘訣など、活動のヒントがいただけたら嬉しい。	1, 4, 5, 7
活動の中核を担う人材の発掘・育成をどのようにすすめているか	1, 4, 5, 7
コロナ前とコロナ後に変化した気付いたこと	1, 4, 5, 7
子どもから子育て世代、そして高齢者まで参加できる活動をしている団体またはグループとの交流で、私達に取り入れられる手法を学びたい。	1, 4, 7
はじめての参加です。まずは地域の中で活動されているいろいろな団体さんとお知り合いになりたい。地域別異分野交流ということなのでそれぞれの分野の得意とされていることを聞いてみたいし、自団体で活かせるものを吸収できればうれしい。交流のテーマは、活動を続けていくために必要なこと、工夫などを長年続けておられる先輩方に伺ってみたい。	1, 4, 7
今年度の各団体の目指すもの。	1, 4, 7, 8
◇少子化対策　◇社会的包摂（インクルージング）　◇多様性（ダイナシティ）　◇男女共同参画	1, 4, 7, 8, 9
団体運営の継続のために工夫していること	1, 5
異分野交流会。以前に交流会で出会った高齢者（独居）の方々の集いの場（手作りランチ会）にミニコンサートの形で参加してと声かけいただいたことがある。お互いの活動を知ることができ、集うことができなかったこの数年を経て、これからの活動についての展望などお聞きしたい。	1, 5, 7
日頃運動不足で困っている団体様のお手伝いをしたいと思う。簡単な座ったままでできる呼吸体操を2～3準備していきます。	1, 5, 7
コロナ禍発生以降の新たな社会状況に対するボランティア団体の責務と活動のあり方について。	1, 5, 9, 13
異分野交流により「異分野」の社会資源を知りたい。どのような分野でどのように地域と関わっているのか、情報を収集し、自分たちの地域活動に取り入れ、活かしていけるヒントが得られたらありがたい。	1, 6, 7
音楽を中心に活動されている方の地域での居場所拡大について交流。	1, 7
ボランティア参加者の増員	1, 7
毎年、里山づくり（地域の方に多く参加してもらって…）など、大変参考になるお話が聞ける。これからも交流会を楽しみにしている。	1, 7
高齢者の引きこもり対策（具体的方策）	1, 7, 12
ボランティア同士のつながり方	1, 9, 11
同じ分野の団体と活動内容や運営の仕方、広報のやり方、スタッフ（役員）の役割分担や引き継ぎについて交流したい（インターネットの普及により、会の今までのやり方を見直す必要が出てきたので）。	10, 11

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか	
世代を超えた交流。子育てから介護まで世代を超え、お互いが持っている問題点などを補い合える交流テーマを見つけたい。	10, 11
他の団体の具体的な活動内容が知りたい（協力してくれる方や場所、広報の効果的な方法など）。共感できる、思いが重なる団体やグループの方と一緒にできることがあれば考えていきたいので、まずはつながりを作りたいと思う。	11, 13
コロナ禍で生活に変化が多々あり、介護・病気・医療・高齢者・働く人たちなどのこころのサポートの仕方や人との関わり方。	2, 12
・災害訓練　・どんな団体でも手話ではどう伝えるかを考えれば、どの団体ともご一緒できると考える	2, 13
・日本は困りごとを家族の中で解決しようとして、本当は大変なことになっているのに、相談することがまだまだ少ないと思う。第三者に入ってもらってよくなるケースが多い　・生きづらさについて	2, 13
皆さんがどのような活動をされているのか知りたい。	2, 13
他団体の方の活動内容を詳しく知りたい。	2, 3, 5
居場所づくり	2, 4, 7, 12
Q6で書いた通り、活動内容の見直しをすることにしたので、他の団体の方で交流できそうな方があれば…と思っている。どの団体さんも抱えている課題が違う中、「どのようなテーマが？」と言われても、思い浮かばない。	2, 5
持続可能な活動とは？	2, 5
障がいのある子どもたちの活動をしているグループの経験や実状を知ったり、話し合いたい。	2, 5
紬は分類問わず、いろんな方々のお話を聞き、いつでも協力できることがうれしいので、皆さまの活動内容や目標などお聞きできるとありがたい。どのような宣伝活動をされているのか、日頃心がけておられることなどお聞きしたい。	2, 5, 12
初めての参加です。皆さんの活動やその方法を聞き、学ばせていただきたい。	2, 5, 7
若いボランティアをどうやって増やしていくのか。財政的に安定させるための工夫。	3, 13
私たちはアートを作成し発表している団体だが、アートセラピーのような、参加型のアートを御指南できるようなことをしたい。老人ホームや育児サークルなど。そして、次の世代のために、今私たちが気付いて行動しなければいけないことを話し合いたい。それがアートの分野でできることがあればいいと思っている。	3, 4, 5, 7, 8
いつも楽しみに参加している。他団体とコラボして活動するならば具体的にどのような活動ができるか、考えてみたい。	5, 10
教育について	5, 10
スタッフを増やすにはどうしたらよいか。地域への活動のアピール方法。	5, 10
同じまたは似た分野での交流を希望。つながって協力を深めたいから。異分野なら各々の活動内容をお聞かせいただく…〝相互理解をする〟でしょうか。いつも素晴らしい交流の場の提供をありがとうございます。	5, 10, 12
・立ち上げのきっかけ　・なぜその分野で活動しているのか　・地域にどのような形で関わっているのか　・プライベートや仕事の両立の工夫	5, 12
情報発信	5, 12
地域でのつながりづくり	5, 13
初めての参加になり見当がつかない。	5, 13
市民活動交流会がどういう交流会なのかよくわからない。どこでどのような活動をされているか知りたい。子どもたちと一緒に活動できることがあれば来ていただきたい。交流会楽しみにしています。	5, 9
異世代での交流ができればと思う。地域のなかで理解をお互いに深め合えればうれしい。5/20は参加がむずかしく申し訳ありません。	5, 9, 10
＜まちづくり＞	
地域の文化・歴史を知る	7
猪名川町は過疎化がすすみ、不便（交通機関の減少）な所も多くある。そんな猪名川町の観光PRの仕方を知りたい。また、若い方がガイドや町に魅力を感じる方法。	13
・各団体のアイディアの共有。　・これまでの取り組みとその結果の情報共有。	1, 4, 5, 6, 7
高齢化対策（会の存続につながる）	1, 7
私たちの活動は、「生」の石積みを通して、心のケアや命の大切さについて考える。そのようなテーマで交流できればと思う。	4, 5, 6, 7
地域の人をイベントに巻き込む方法について。他の団体の方がどのような手法を取っておられるのか聞きたい。	4, 5, 7
○多世代交流・まちづくり・チームづくり・団体の継続について　○アート・ものづくり・テクノロジー　○マイノリティーなど　○テーマで交流ができるとうれしい　※代表である私は仕事で参加できず申し訳ないが、代わりに他のメンバーが参加予定	4, 5, 7, 13
団体のあり方とは？	5, 7

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか	
＜防災・減災活動、地域安全活動＞	
「地域の困りごとは何か？」こそがテーマになると思う。まずは皆が問題意識を共有し、それぞれのグループ活動がどの分野でどんな意義を持っているのかを確認する。グループそれぞれの活動の意義をよりよく知ることは、お互いに敬意を払うことにつながる。グループだけでなく、個人でもどんなボランティア活動をしているか、聞かせてほしいと思う。	6
それぞれの団体がかかえている課題を共有し、団体間の連携を図ることで解決できないかを探りたい。	6
3/27の交流会のように、A4用紙に以下のこと（団体名、活動内容、今年度の挑戦、団体の困っていること）を書いて話し合う。もしかしたら別の団体でサポートできたり、コラボにつながるかも。A4の用紙はスタンドに立てて見やすくする。	4,5,6
＜人権擁護・平和の推進活動＞	
居場所づくりや対話グループ、セルフヘルプグループ活動などを行っている団体と、インフォーマルなサポートについて交流したいと思う。	2
＜多文化共生（多世代交流）＞	
・新たなボランティアの掘り起こしと育成　・外国人との接点の作り方	3
交流会へ一度も参加していないので…	13
人と人のつながり、シニアはシニアだけでグループになりお互いに加齢という問題を抱えている。子育て世代は、その世代でグループとなり、知恵や経験が浅いことへの不安という問題を抱えている。「おひとりさま」も増えて、将来への暮らしや孤独への不安も抱えている。すべての世代が互いに共働できるワークショップや活動を模索している。	1,2,3,4,5,7
各団体の環境への取組状況を知りたい。	1,2,4,6,7,8,9
◎スタッフの高齢化と若い担い手を育てるにはどうしたらいいか　◎助成金など活動資金について	1,4,5,7
人材の育成方法について。企業との連携方法。	1,4,5,7,9,12
支援の必要な人にアウトリーチをするために、他団体ではどのようなことを実践しておられるか情報交換したい。	3,4
団体同士が協力して支え合うにはどうしたらいいか？	3,5
近くで活動しているグループと意見交換できること自体がうれしい。	3,5
Enjoy 人権！！　「みんなが主役」のまちづくり	3,7
・個々の団体が協働のネットワークを如何にして広げていけばいいのか　・個々の団体の企画力の交流（どのようにして強化していくのか）　・ボランティアメンバーの確保のための手だて	4,5,9
小学～高校生とのつながり、交流。	4,7
他団体とうまく協働するために工夫していること。	5,7
＜子どもの健全育成＞	
マスコミにも取り上げられ、各広報誌の取材も受け、かなり認知度は上がったと思っていたが、最近おもちゃを持ち込まれた方に「おもちゃ病院があることを知らなかった」と言われた。子育て世代、孫のいる世代の方々にもっと知っていただけるような広報方法を教えてください。	1
「やって良かったこと」などを聞かせてほしい。課題や困りごとがテーマになることも多いが、成功例を聞きたい。	5
今の活動を始めた動機やきっかけ、そして現在のやりがいを知りたい。	5
同じような活動をしている人々が集う会。例えば、音楽、ダンス、演劇など発表をする団体、老人介護を主にしている団体…など、活動内容で分けるのはどうでしょうか。いろいろ有益な情報を共有できると思う。	5
グループのメンバーを増やすには。広報の方法。	5
子育て支援で頑張っている方々と交流ができたらと思う。ボランティアで活動している方々のいろんなお話が聞きたい。	5
子どもの居場所としての活動	5
ストーリーテリング（おはなし）を知ってもらうのはなかなかむずかしく、聞いたことのある人には理解してもらえるが。そのような状況で交流となると説明だけで終わってしまい、交流するまでにならないのが現状。わらべうたも同様で、手遊びと誤解される方も多く、私たちのような活動のグループは交流は困難かと思う。申し訳ありません。	5
世界の子どもを取り巻く環境について	5
特に思いつかない	5
若い方たちも気になるが、子どもたちを一番応援したいと思う。子どもたちを中心に大人や高齢者、助け合う街づくり、不登校や虐待がなくなるのを願います。	5
共生社会、誰もが垣根なしにいろいろなことを共に楽しめる生活ができることを目指し、得意分野を提供し合い、おもしろい企画ができるような協力体制、つないでくれるネットワーク体制、ヒト・モノ・ハコがあればいいなと思う。宝塚市内ではあるが、今回は少し外に踏み出し、広い地域での交流に期待していいます。	1,2,3,4,5,6,7

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか	
・子育て世代の人たちの要望と、自分たちのグループが互いに助け合い、役立てられるような企画・実現に向けて　・本を通じて地域活性化になれれば…そんな取り組みを一緒に計画していければと思う。	1,2,3,4,5,7,10,12
0歳～未就学児の親子の関係づくりについて学ぶ。主婦の引きこもりがどの世代に多いのか、子育て中の女性を取り巻く環境が改善されているのか、新しい社会がどんな風に変化するのかについて学ぶ。	1,2,3,4,5,9,10,12
新メンバーの集め方。より広く地域で自分たちの活動を広げていくにはどうすればよいか、具体的な方法を知りたい。SDGsとボランティアの関わり。	1,2,5
地域でお互いにどのような活動をしているかを知ると共に、お互いに助け合うことができる点を見い出し、活動をより広く元気にしていけたらいいなと思っている。	1,2,5
若いボランティアスタッフも少しずつ増えてきているが、ほとんどが高齢者のため、5年ぐらいかけて若い世代にバトンタッチして運営を任せていきたいと思っている。他のグループの方はどのような方法でされているのか、また考えられているのか、そこを知りたい。	1,2,5,9,10,12,13
同じ内容（子育て等）のグループとの交流を希望。異分野交流は新しい知識は広がるが、即自分たちの活動に活かしにくい。	1,3,5
・現在地域で抱えている問題　・自分の行なっているボランティア活動の改善点　・ボランティア活動を円滑にすすめる、あるいは継続していくために注意していること　・安定した収入を確保するための工夫	1,4,5
【心の豊かさを向上するために】・教育　・ソーシャルビジネス　・公民館などの活用法　・老人会やPTA、子ども会について	1,5,7,9
広報活動について、コラボ企画について	2,5
児童を対象とした活動では、どんな活動をしておられるか知りたい。	2,5
「変えたいこと」をテーマに交流してみたい。他団体さんのビジョンを知ることができ、異分野でも方向性や何か共通のことがあるかもしれない。そこからつながったり、新たな気付きをいただけるのではないかと期待している。	2,5,7
関わる人の集め方、増やし方。ボランティアの継続に必要だと思うこと。異分野でコラボできそうなこと。	2,7,9
26年目として文庫活動の継続をと考えているが、他団体は今後の活動の継続について新たに何を考えているかを教えていただきたい。今、本当に必要な活動は何であるか。個人の活動の必然性はあるのか。	3,4,5,7
地域でのコミュニティづくりをしている他の団体を知りたい。対面での人との出会いが減っている現代、どのようにしてコミュニティが維持され発展していくのでしょう。	4,5
いかにイベントを告知するのか、効果的な方法など。考えていただきたい。	4,5,10
テーマ「児童青少年の育成と支援」：車の両輪である育成と支援が細分化され、ともすると全く個別に動いている。交流を通して、それぞれの課題や活動経験を共有し、協働の芽を探す。 【育成の分野】教育的要素が主である包括型事業の課題：非認知能力の獲得（生きる力、やり抜く力、人と関わる力、自律する力など）。発達にとって不可欠な経験や体験（野外活動、スポーツ、自然体験、伝統文化など）。社会的モラル（個人と集団、いじめ、非行、犯罪）、異世代（異年齢）の交流など。 【支援の分野】福祉的要素が主である問題解決型事業の課題：社会的孤立（居場所）、子ども虐待、ヤングケアラー、未成年の妊娠など。不登校、発達特性、身体特性、金銭的貧困、失業（不就労）など。 【双方にまたがる課題】：心の貧困、子育て世代、外国籍の子ども、防災減災に繋がる共助、協力者・指導者の確保。 ※出来るのであれば意見交換しやすい、少人数グループによる交流を望む。	4,5,6,7,8,9,13
それぞれの活動自体がどのようなことをされているのか。加えて、何か協力し、互いの助けになれるようなことを模索・提案できるような交流会であればと願う。	4,5,7,9,12
環境活動または多世代交流に興味がある。	4,6,8,9,10
◎継続していくことのヒント　◎祖父母世代からも「地域にこんな場所があるよ」と紹介してほしいので、異分野の方とお話できるのはうれしい	5,10
利用される方が求めていること（ママや子育て世代、女性）。〇無料でワークショップをしたい〇子どもをあずけたい　〇ママ同士でおしゃべりや交流をしたい　〇習い事のように週1回などの定期的な習慣にしたい。	5,10
″世代間交流について″：地域において世代を超えて交流をすることで子どもを支える、高齢者を見守る、災害時に地域の助け合いができると考えている。何か交流の場を実施している団体を参考にさせていただきたいと思う。	5,12
・どのようなテーマでもいろいろな活動団体のお話や考え方を聞いてみたい。　・「市民活動を長く続ける方法」など	5,12
異分野でそれぞれの活動内容を周知したうえで、コラボしてできるイベントや活動がないか考えたい。また、2023.4.1オープンしたコープ甲東園つどい場CO-KOで中高生の居場所をダイヤ門戸さん、認定NPO法人みやっこサポートさんとともに作ろうと考えているが、どんな場所であれば中高生が来てくれるかヒントをいただきたい。	5,12
事業運営のための財源、寄付金の獲得について	5,12

Q8.市民活動交流会ではどのようなテーマで交流したいですか	
活動を継続していくために必要なことなどを話し合いたい。若い大学生などの人材を募集したい。	5, 7
残念ですが、参加の予定はない	5, 7
地域で支え合うためにやるべきこと。	5, 7, 10
子どもたちの好奇心を広げるアイディアがあれば…	5, 7, 9
さまざまな分野があり、得意なこと、不得意なこと…。これをお互いに助け合い、未来志向的に発展していきたいと思っている。	5, 9
団体としてスタッフが長く活動を続けるためのコツや工夫。自分の団体の強み、魅力。	5, 9
・広報活動のアイディアと工夫　・行政との関わり方	5, 9, 10
＜食と農・食育＞	
同じような活動をしている団体のネットワークを作り、情報提供者が発信した情報の内容に合ったネットワークに情報を流し、情報の迅速な活用を図る。例）①イベント内容に合った（手伝ってもらえる）人の募集　②食品・野菜の提供　※2年程前に西区社会福祉協議会の方にお願いし、子ども食堂のネットワークを組んでいただき、大量の野菜がある時はネットワークを通して募集をしていただいた。更にこのシステムを活用して寄付された食品の希望団体を募っている。	5, 7, 9
各団体の活動や事業紹介をしながら、連携・コラボの可能性をさまざまに話し合えればと思っている。テーマに関していろいろな異分野の団体を包括的に取りまとめ、活発に議論・交流できればどのような内容でもうれしく思います。	7, 9
ボランティア活動ではあるが、助成金・補助金に頼らない自立した運営資金を得るための方策。	8, 9
＜環境＞	
地域住民の多くに共感を持たれるまちづくり活動とは？	7
高齢者の多い集落では、どのようにして活動する人と活動費を確保しているのか。	8
森林ボランティア→地域の森を守る→日本文化を守るテーマ。	8
団体活動のPRひいては会員獲得につながるPRはどうしているのか。会員のモチベーションの持続についてやっていること。	8
団体活動を継続していくために、会員募集やイベントの企画・PR活動などどのような工夫をしているのか？	8
昨年度参加していないため分かりかねるが、お互いの団体に行き来できたり、WINWINの関係を築けるような交流をしてみたい。	4, 7, 8
地域課題はリストアップして、そのテーマ別にワーキング交流したい。例1）地域団体は真に地域・人のために役立っている活動ができているのか？　例2）人のつながりはどのようにして育てられるか？　例3）行政と市民との協働関係の実践的実例紹介	4, 7, 8
・ボランティア活動への地域住民の参加を促すには？　・世代間交流をすすめるには？	5, 6, 8
○高齢化による会員の減少…元気な高齢者はいつまでも何らかの形で職業に携わり働いている。そのため、時間が取れず、ボランティア活動をする人が少ない。　○当クラブは、農作業や里山林の手入れなど、よほど興味がないと暑さ、寒さにさらされる戸外での活動が中心なので、人材が集まりにくい。　○担い手を増やしていく方法など。	5, 8
連助	6, 8
元気な高齢者が積極的に団体活動に加わり、ボランティア活動に参加する地域とするには？　今は全年齢層が個人主義になってしまっているようで、団体に参加するのを嫌っている？（自治会にさえ入りたがらない）	7, 8
フードドライブ活動など	7, 8
年々増える放課後デイ、オルタナブルスクールへの対応を里山整備というカテゴリーの中での対応方法。	8, 12